

管理職による授業観察実践事例集



(平成26年度新任教職員研修の教育センター研修「授業づくりの研修」での一コマ)
～各グループの協議のまとめを、黒板を使ったKJ法で整理しながら、全体で協議～

企画・研修スタッフ 共同研究

平成27年3月

島根県教育センター

【目次】

1. はじめに

2. 管理職による授業観察リーフレット

- ・ 汎用タイプ （平成25年度企画・研修スタッフ共同研究成果物）
- ・ 算数・数学編 （平成26年度企画・研修スタッフ共同研究成果物）

3. 参考資料

- (1) 「授業づくりの研修」におけるねらい
- (2) 授業改善につながる「省察」に関わる4つのカテゴリーと16の要素
～自己省察シート～
- (3) 授業改善につながる**共同省察**の7つの要素と研究協議の場における共同省察の視点
- (4) 「授業力に関する自己診断シート」の項目

4. 授業観察実践事例（聞き取りまとめ）

- | | |
|-----------------|-----|
| (1) 小学校 | 10校 |
| (2) 中学校 | 12校 |
| (3) 高等学校 | 5校 |
| (4) 特別支援学校 | 2校 |
| (5) 退職校長からの聞き取り | 2名 |

5. 付録

- ・ 管理職からの役に立った言葉かけ集
(平成26年度初任者研修及び経験者研修受講者等へのアンケートより)
- ・ 聞き取りした校長先生方にいただいた資料

6. おわりに

1. はじめに

平成26年度の島根県教育センター企画・研修スタッフの研究として「管理職の授業観察の在り方」について取り組んできたが、その一環として、教育センター勤務経験のある管理職や授業観察のアンケートで受講者から評価の高かった管理職等に聞き取り調査（10月～12月実施。【聞き取り時の質問項目】参照）の方法を用いて、授業観察におけるコーチングの成功談や失敗談をまとめることとした。校種や地域を考慮しながら県内で31校の訪問先を選定した。

【聞き取り時の質問項目】

- ①授業観察で工夫されていること
- ②授業観察（コーチング）の成功談や失敗談
- ③教諭時代に授業力向上で工夫したことや苦勞したこと、役立ったことなど
- ④「管理職による授業観察リーフレット」の感想
- ⑤授業力向上や授業観察で大切だと思うこと
- ⑥授業改善に関わって校内研修において工夫されていること
- ⑦その他（学校経営や管理職の資質向上等に関して）

各学校の聞き取りの結果をまとめると、以下のような特徴が見られた。

○日常の授業観察の特徴（質問①から）

- ・授業を見る視点では「子どもの様子」「子どもの良さ」「生徒の表情・顔」「生徒の姿勢・参加具合」が最も多く（17人）、「学級の雰囲気」がそれについて多かった。（6人）
- ・また事後は、独自の授業観察シートを使って、事後の助言をしている場合が多かった。（9人）

○めざす授業像（質問③、⑤から）

- ・ねらいの明確化や児童の意欲を高める学習課題の設定に関するものが多かった。
- ・子ども主体の授業や子どもの実態に即した授業、教員の資質や授業に臨む姿勢に関するものも多かった。（【めざす授業像の主な具体例】参照）

【めざす授業像の主な具体例】

目標・学習課題…「ねらいの明確化」「学ぶ必然性」「子どもの困り感に沿った授業」「課題提示の方法・思考の可視化」

子ども主体の授業…「思考の場・書く活動の充実」「子ども同士の対話」「共同学習で子ども自身が聞く」「教師の“待つ”姿勢」

子どもの実態に即した授業…「子どもに合わせる柔軟性」「子どもの反応の予想」「ユニバーサルデザインの構築」

授業を支える教員の資質・姿勢…「教材への惚れ込み具合」「自分の言葉で授業が語れる（教材解釈力と教材作成力）」「授業分析力」「去年と同じことをしない」

○教員への働きかけ

（質問①、②、⑤から）

- ・「ほめて伸ばす」「自信を付ける」といった授業者の意欲を重視する働きかけや、「授業者の意図に沿った助言」「何をやりたいのか探る・整理できていない授業者に気づかせる」といった授業者のねらいを重視する働きかけが多かった。

○『管理職による授業観察リーフレット』の感想（質問④から）

- ・授業づくりの話の際のツールや良い所を見つける手がかりとして、「そのまま使用」でなく「活用」する事例が多かった。
- ・全教職員に配布することによって教員が授業を見られる視点の意識化を図ったり、自己チェックの指標となったりすることを期待する事例も見られた。

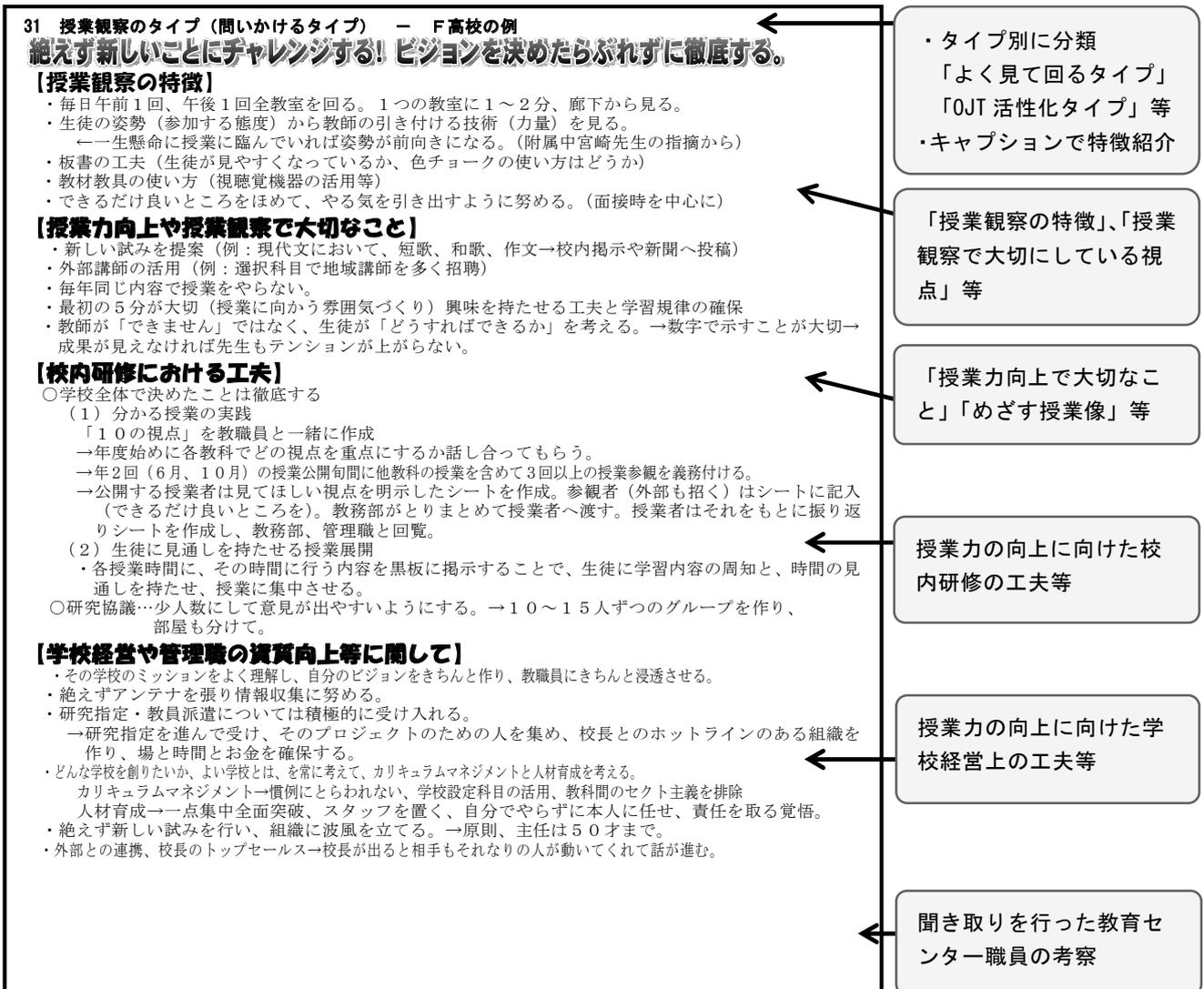
【組織的に授業改善を図る取組の主な具体例】

- 学校の目標を共有化する取組…「課題の把握からめざす学校像の共有化」「学校のミッションの理解とビジョンの作成と教職員への浸透」
- 授業を見る視点の焦点化や共有化を図る取組…「客観的な授業評価のものさしの共有化」「教科を超えた共通の視点の作成」
- 学校組織の活性化に関する取組…「まず校長から動く」「新しいことへのチャレンジ」「新しい試みと組織に波風」「教員の絆づくり」
- 学校外の教育資源を活用する取組…「外部講師の継続的活用」「地域への発信」「研究指定と教員派遣」「外部連携と校長のトップセールス」
- その他…「ステップアップする重点目標と2ヶ月でPDCAサイクルを回す」「ベテランと若手の意見交換」

○組織的に授業改善を図る工夫（質問⑥、⑦から）

・ほとんどの学校が学校経営や校内研究と関連させて、組織的に授業改善を図る取り組みをしていた。具体的な取り組みとして、学校の課題や目標の共有化、授業を見る視点の焦点化や共有化、学校組織の活性化、学校外の教育資源の活用等が行われていた。（【組織的に授業改善を図る取り組みの主な具体例】参照）

一方、校長先生方は、各学校の教育目標を具現化するための手段の一環として、自身の学校経営方針に基づいて授業観察をしている。したがって、今回の聞き取り結果を学校現場で生かしてもらう際には、一人一人の授業観察やマネジメントの方法、それらの根底にある考え方を総合的に見て、参考にしてもらう方がよいのではないかと考え、「授業をよく見て回るタイプ」「OJT 活性化タイプ」等に分類し、下図のような「管理職による授業観察実践事例集」を作成することとした。管理職が授業観察をする際の一助となることが期待できる。



2. 管理職による授業観察リーフレット

汎用タイプ

今、必要なのは

個々の教員が主体的に自らの授業改善を進めていくこと

そのためには

支える

管理職による指導・助言が重要

管理職には確かな授業観察力と適切な説明力が求められる

教員の主体的な授業改善を支えるため、管理職による授業観察を助けるツールとして『授業観察のチェックリスト』と『授業観察シート』を有効に活用する事例です。

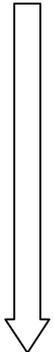
年度の初め

… ①『授業観察のチェックリスト(例)』を参考に、自校独自の「授業観察チェックリスト』を作成する。



授業前

… ②授業者と管理職で「授業の中での工夫」や「授業改善のポイント」などを話し合い、『授業観察シート(例)』の【**本時の授業で大切にしたい点**】を記入する。
*学校教育目標や『自己目標評価シート』の「学習指導の自己目標・目標達成のための手立て」が反映されるとよい。
③『授業観察シート(例)』の【**授業観察の視点**】に、①で作成した自校独自の「授業観察のチェックリスト』を参考に管理職が授業者とともに記入する。



実際の授業

… ④【**授業観察の視点**】に沿って、【**管理職からのコメント**】を記入する。



授業後

… ⑤【**管理職からのコメント**】欄を使って授業者に指導・助言し、今後の授業改善の方向を授業者とともに考える。

※『授業観察シート(例)』と『授業観察のチェックリスト(例)』は、ともに例示であり、この例を参考にして各校独自の『〇〇学校授業観察シート』や『〇〇学校授業観察のチェックリスト』を作成することが大切である。

授業観察シート（例）

平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日 (○) 5 年 A 組 教科: 算数

授業前に、管理職と授業者とで話し合った内容を記入する。

【本時の授業で大切にしたい点】

- ① 図形学習における作業的・体験的な活動を取り入れ、図形に対する興味・関心を高める。
 - ・「図形カード遊び」（自作教材）を通して、図形の移動や回転、重ね合わせる活動を重視する。
- ② 既習の学習事項の定着と、合同な図形の意味について理解させる。
 - ・既習の図形の性質を確認しながら、作った図形の中から「合同な図形」を見つける。

授業観察のチェックリストを参考にし、本時の授業で大切にしたい点や授業者の実態に応じた項目を作成する。

授業観察の視点をもとに、管理職のコメントを記入するが、すべてを記入しなくてよい。

【授業観察の視点】		【管理職からのコメント】
情熱・使命感	<input type="checkbox"/> 同僚に相談したり、上司に助言を求めたりするなど他の教員との連携がとれている。 <input type="checkbox"/> 明るく、元気よく子どもたちに接している。	・自作の図形カードの活用の仕方など、他の教員に相談し、よりよい授業にしようとする姿勢は素晴らしい。 ・カード遊びを楽しもうとするムードづくりがよい。
構想力	<input type="checkbox"/> 単元のねらいが明確であり、本時のねらいを提示している。 <input type="checkbox"/> 児童が考えたり、発表したりする場を設けている。 <input type="checkbox"/> 授業のまとめや振り返りをしている。	・どんな図形カード遊びなのか、学習のねらいとつなげて提示されていた。 ・図形カードを様々に操作し、重なる図形を作る試行錯誤の時間が保障されていた。 ・本時の作業的活動と合同な図形の意味を結び付け、簡潔にまとめていた。
生徒理解力	<input type="checkbox"/> 支援を要する児童を意識した準備や声かけができています。 <input type="checkbox"/> 一人一人の変容(つぶやき・表情・動き)を捉えている。	・本時はグループでの作業的活動が中心で、子ども同士は深く関わっていたが、次時では小テストを実施するなど個々の学習の定着にも気を配るとよい。 ・図形の移動や回転、重なりに注目しているつぶやきを大切にしていた。活動に興味を示さない子どもには、もう少し寄り添って適切な助言をしてほしい。
指導力・統率力	<input type="checkbox"/> ねらいに沿った発問が計画的にされている。 <input type="checkbox"/> 板書が分かりやすく、計画的にされている。	・本時の作業的活動のねらいは既習事項の確認と合同の意味の理解である。しかし、直接ねらいにつながらない発問も多かった。 ・図形ごとの性質を整理した板書ができていた。
その他	<input type="checkbox"/> ICTを効果的に活用している。	・実物投影機を使って、図形の移動や回転、重なり等を全体に伝えることは有効であった。今後は、子どもの思考を広げていきたい場面でも活用してほしい。

授業観察のチェックリスト（例）

授業者名		観察者名	
日 時		教科・領域	
【情熱・使命感】 児童生徒等のよりよい成長を願って、周囲と協働しながら自らの資質向上を図っていく姿勢	<input type="checkbox"/> 明るく快活に児童生徒に接している。 <input type="checkbox"/> 言葉遣い、身だしなみ、時間を守るなどのマナーがきちんとしている。 <input type="checkbox"/> 同僚に相談したり、上司に助言を求めたりしている。 <input type="checkbox"/> 常に教材研究を行い、授業を改善しようとしている。 <input type="checkbox"/> 自己課題を意識した授業をしている。 <input type="checkbox"/> 教育に関する新しい情報を得ようとしている。		
【構想力】 学習のねらいを明確にするとともに教材を研究し、見直しをもって授業を計画・創造、改善していく力	<input type="checkbox"/> 学習指導要領に基づいた授業を実践している。 <input type="checkbox"/> 単元のねらいが明確であり、本時のねらいを提示している。 <input type="checkbox"/> 指導と評価が計画的に行われている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の実態に合った具体的な学習内容が設定されている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が思考・表現する場を保障している。 <input type="checkbox"/> 授業形態（個人・ペア・グループ）の工夫をしている。 <input type="checkbox"/> 授業のまとめや振り返りをしている。		
【生徒理解力】 集団の中で個の可能性を引き出すために、児童生徒等一人一人の実態・特性を理解する力	<input type="checkbox"/> 一人一人の発達段階や特性に応じた指導がなされている。 <input type="checkbox"/> クラスの実態・特性を理解し、集団への指導と個への指導を区別している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の学習意欲の向上のために、一人一人の変容（つぶやき・表情・動き）を捉えている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発言や行動を大切にとらえ、自己肯定感が高まるような支援が行われている。		
【指導力・統率力】 学び合う集団づくりに努め、専門的な指導技術をもとに学習のねらいの達成に向けて授業を実践する力	<input type="checkbox"/> 学習規律が確立し、安心して児童生徒が授業に参加している。 <input type="checkbox"/> 豊かな表情、分かりやすい話し方等で児童生徒の興味関心を惹きつけている。 <input type="checkbox"/> 学習を深めるための教材教具が準備されている。 <input type="checkbox"/> ねらいに沿った発問が計画的に行われている。 <input type="checkbox"/> 分かりやすく計画的な板書をしている。 <input type="checkbox"/> ノート・発言・机間指導などから一人一人の良さや優れたところ、伸びを積極的に評価している。		
【その他】 上記の構成要素にあてはまりにくいもの	<input type="checkbox"/> 学習にふさわしい教室環境が整備されている。 <input type="checkbox"/> ICTの有効的な活用がなされている。 <input type="checkbox"/> 教職員評価システムにおける「自己目標評価シート（学習指導の自己目標・目標達成のための手立て）」を意識している。		

※ゴシック体のチェック項目は、教育センターにおける研修で大切にしている視点

この「授業観察のチェックリスト」はあくまで例示であり、授業者の教職経験年数や学校における役割によってチェック項目は変化する。また、学校や地域、児童生徒の実態やそれぞれの学校の学校教育目標や研究主題によってもチェック項目は変化する。各校がそれぞれ独自の授業観察のチェック項目を作成することが必要である。

このリーフレットは、島根県教育センターHP（http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/）からダウンロード出来ます。ホームページには、平成25年度に実施した「小・中学校新任校長研修」および「小・中学校新任教頭研修」で受講者が作成したチェック項目も公開しています。

算数・数学編

★汎用タイプとの違い

- ①事前の打合せ時間は短くする(回数を少なくする)
- ②いつ授業観察を行っても対応可能な観察シートにする

今、必要なのは

個々の教員が主体的に自らの授業改善を進めていくこと

そのためには

支える

管理職による指導・助言が重要

管理職には確かな授業観察力と適切な説明力が求められる

教員の主体的な授業改善を支えるため、管理職による授業観察を助けるツールとして『授業観察シート』を有効に活用する事例です。

授業前

- … ①授業者が『**授業観察シート(例)**』の【本時のねらい】と【本時の授業で大切にしたい点】を記入し、管理職に提出する。
*【本時の授業で大切にしたい点】は、「算数・数学科の授業で大切にしたいこと」を参照するとよい。
- ②授業者と管理職で【ねらい】と【授業で大切にしたい点】をもとに、「授業の中での工夫」や「授業改善のポイント」などを話し合う。
*学校教育目標や『自己目標評価シート』の「学習指導の自己目標・目標達成のための手立て」が反映されるとよい。
- ③『**授業観察シート(例)**』の〔授業観察の視点〕をもとに、話し合いの中から本時の授業で見る視点を確認する(チェックを入れる)。

実際の授業

- … ④チェックを入れた項目の〔授業観察の視点〕に沿って、〔管理職からのコメント〕を記入する。
*授業観察中、新たに気になる視点が見つかった場合、その項目にチェックを入れてコメントを記入する。

授業後

- … ⑤〔管理職からのコメント〕欄を使って授業者に指導・助言し、今後の授業改善の方向を授業者とともに考える。

※『**授業観察シート(例)**』と『**授業観察の視点(例)**』は、ともに例示であり、この例を参考にして各校独自の各教科版『○○学校授業観察シート』を作成することが大切である。

授業観察シート（例）

平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日 (○) 2 年 B 組 教科: 数学

事前に「授業のねらいと大切にしたい点」を記入し、管理職に提出する。
大切にしたい点は、「資料」を参照。

単元名	連立方程式（導入）	
<p>【本時のねらい】 ○与えられた2つの情報（式）をもとに、りんごとみかんそれぞれ一個の値段を求めるための様々な方法を考える</p> <p>【本時の授業で大切にしたい点】 ○値段の求め方は一通りでなく、多様な考え方（求め方）があること。 ○新たな問題に対し、学習した事柄を活用して考える。 ○発見した求め方に対し、自分の考えを分かりやすく説明したり伝え合ったりできる。</p>		
授業者と管理職による話し合いの中で、本時の授業で大切にしたい視点の項目を確認（☑）する。		授業観察の視点をもとに、管理職のコメントを記入するが、すべてを記入しなくてよい。
【授業観察の視点】 ※ゴシック体は算数・数学的な視点		【管理職からのコメント】
導 入	<input checked="" type="checkbox"/> 本時のねらいが提示されている。（わかりやすい） <input checked="" type="checkbox"/> ねらいにせまるために有効な学習課題の提示である。（知的好奇心が高まり、追求意欲が感じられる問題である） <input type="checkbox"/> 既習事項を元に見通しが持てる学習課題の提示である。（解決の見通しが持てる）	・ねらいを示し、本時の取組を明確にしている点はよかった。本時のねらいが、生徒自ら望んでいる思いであるともっとよい。 ・学習課題は、クイズに似た追求意欲が沸くような課題提示となりよかった。
展 開	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒の様子を見取っている。（机間指導、個に応じた声かけ等） <input checked="" type="checkbox"/> 考える時間を確保し、その考えを説明・表現する場を設定している。 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が、既習した用語や事柄を活用しながら考えを説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 多様な考えや発展的な考えを上手く引き出している。 ・児童生徒の考えや発言をコーディネートし、全体へ広げている。 ・より良い考えに高める（よさを実感する）ことができている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の実態に応じた授業が展開されている。 <input type="checkbox"/> 意味理解を伴った知識・技能の習得を図っている。	・机間指導を行い、考えが行き詰まった生徒に助言している姿はよかった。個々の生徒に関わろうとする熱意はとてもよいが、教師一人で対応しきれない場合もある。考える場面や説明・発表する場面でペアやグループを効果的に使うことも時には必要ではないか。 ・生徒が考えを説明する際、習った用語を使っていない場合は言い直しをさせるなど、用語を意識させるとよい。 ・最後の問題が重要。今日は時間がなく説明まで至らなかったが、より良い考えに高めるためにも次時に期待したい。
終 末	<input checked="" type="checkbox"/> 本時の授業の流れがわかる板書となっている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒自身が学びを見つめるための振り返りの場を設定している。 <input type="checkbox"/> 本時の学習したことを確かめるための評価問題等を出している。	・新たな問題に対し、学習した事柄を活用していきやすいような板書であった。合理的配慮を考える上でも板書は重要であるので、今後も板書計画をしっかりと行えるとよい。
授 業 全 般	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が意欲的に学習に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 内容の系統性・有用性を重視し、発達の段階に応じた反復（スパイラル）による授業 <input type="checkbox"/> 効果的な教材・教具の工夫、ICTの活用をしている。 <input type="checkbox"/> 個別学習・グループ学習を効果的に活用している。	・問題解決のための考え方を次の問題にも活用させるなど、内容の系統性をうまく考えた学習課題であった。生徒も時間いっぱい一生懸命に考えていた。

資料

算数・数学科の授業で大切にしたいこと

◇算数・数学好きの子どもたちを増やす

- 算数的活動、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感する
 - ※算数・数学的活動とは …… 児童生徒が目的意識を持って主体的に取り組む数学に関わりのある様々な営み
- 算数的活動や数学的活動を具体的に示したり課題学習を位置付けたりし、実感を伴って理解できるようにする

◇見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てる

- 自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする
 - 根拠を明らかにして、筋道を立てて説明する
- 考えを共有したり深めたりし、質的に高める
- 数学を活用して考えたり判断したりする機会（場）を設定する

◇各学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な学習の展開

- 内容の系統性を重視し、発達の段階に応じた反復（スパイラル）による授業
- 学ぶ意欲を高めたり、学ぶことの意義や有用性を実感できる
 - そのために
 - ・数量や図形の意味を実感的に理解する
 - ・理解の広がりや深まりなど、学習の意欲が感じられる
 - ・学習して身につけたものを日常生活や他教科、より進んだ算数・数学の学習へ活用する

- (参考文献)
- ・小学校学習指導要領解説 算数編
 - ・中学校学習指導要領解説 数学編
 - ・高等学校学習指導要領解説 理数編
 - ・島根県教育委員会 算数・数学科の指導の重点（平成27年度版原稿）

この「授業観察シート」はあくまで例示であり、学校や地域、児童生徒の実態やそれぞれの学校の学校教育目標・研究主題によっても授業観察の視点の項目は変化する。各校がそれぞれ独自の授業観察の視点の項目を作成することが必要である。

このリーフレットは、島根県教育センターHP（http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/）からダウンロードできます。また、ホームページには、平成25年度に完成した「管理職による授業観察リーフレット」や「授業観察のチェックリスト（例）」及び平成26年度にまとめた「管理職の授業観察事例集」も公開しています。

授業観察シート

平成 年 月 日 () 年 組 科: 授業者

単元名・主題名		
【本時のねらい】		
【本時の授業で大切にしたい点】		
【授業観察の視点】 ※ゴシック体は算数・数学的な視点		【管理職からのコメント】
導 入	<input type="checkbox"/> 本時のねらいが提示されている。(わかりやすい) <input type="checkbox"/> ねらいにせまるために有効な学習課題の提示である。(知的好奇心が高まり、追求意欲が感じられる問題である) <input type="checkbox"/> 既習事項を元に見通しが持てる学習課題の提示である。(解決の見通しが持てる)	
展 開	<input type="checkbox"/> 児童生徒の様子を見取っている。(机間指導、個に応じた声かけ等) <input type="checkbox"/> 考える時間を確保し、その考えを説明・表現する場を設定している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が、既習した用語や事柄を活用しながら考えを説明している。 <input type="checkbox"/> 多様な考えや発展的な考えを上手く引き出している。 ・児童生徒の考えや発言をコーディネートし、全体へ広げている。 ・より良い考えに高める(よさを実感する)ことができている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の実態に応じた授業が展開されている。 <input type="checkbox"/> 意味理解を伴った知識・技能の習得を図っている。	
終 末	<input type="checkbox"/> 本時の授業の流れがわかる板書となっている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒自身が学びを見つめるための振り返りの場を設定している。 <input type="checkbox"/> 本時の学習したことを確かめるための評価問題等を出している。	
授 業 全 般	<input type="checkbox"/> 児童生徒が意欲的に学習に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 内容の系統性・有用性を重視し、発達の段階に応じた反復(スパイラル)による授業 <input type="checkbox"/> 効果的な教材・教具の工夫、ICTの活用をしている。 <input type="checkbox"/> 個別学習・グループ学習を効果的に活用している。	

3. 参考資料

(1) 「授業づくりの研修」におけるねらい

<p>経験年数に応じた研修（教育センター研修）において大切にしたい「授業力」の視点</p>			
<p>◆教育センター研修における「授業力」の四つの構成要素の解釈【構成要素は平成20年改訂「しまね教育ビジョン21」より】</p>			
<p>「情熱・使命感」 児童生徒等のよりよい成長を願って、周囲と協働しながら自らの資質向上を図っていく姿勢</p>			
<p>「構想力」 学習のねらいを明確にするとともに教材を研究し、見通しをもって授業を計画・創造、改善していく力</p>			
<p>「生徒理解力」 集団の中で個の可能性を引き出すために、児童生徒等一人一人の実態・特性を理解する力</p>			
<p>「指導力・統率力」 学び合う集団づくりに努め、専門的な指導技術をもとに学習のねらいの達成に向けて授業を実践する力</p>			
<p>◆経験年数に応じた研修において大切にしたい授業力の視点（下線部はキーワード）</p>			
	初任者研修	6年目研修	11年目研修
「授業づくりの研修」におけるねらい	<p>授業の目標を踏まえ、<u>児童生徒等を主体とした授業</u>ができる。</p>	<p>授業の目標を踏まえ、<u>児童生徒等の実態を考慮し、学習過程、指導内容及び方法等を工夫した授業</u>ができる。</p>	<p>各教科等の目標及び学習評価等を踏まえ、児童生徒等が自ら学びを生かし深めていく、<u>思考力・判断力・表現力等を育む授業</u>ができる。</p>
<p>指導と評価の一体化 ～授業改善につなげる～</p>			
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを明確にする。 単元（題材）をとおして付けたい力を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを明確にする。 単元（題材）や年間をとおして付けたい力を明確にする。 指導内容の系統性や関連性を考慮する。
構想力及び生徒理解力	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業に児童生徒等が主体的に学ぶ場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒等の思考の流れを大切にするとともに学習意欲を高めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒等の実態や思考の流れを大切に単元（題材）計画等を構成し、知識・技能の活用を図る学習活動を充実させる。
学習評価	<ul style="list-style-type: none"> 学習評価の意義を理解するとともに、ねらいに準拠した評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒等の実態や学習内容に応じて、評価方法を工夫する。 「指導と評価の一体化」の具体について理解する。（形成的評価の重視） 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒等の思考力・判断力・表現力等の評価方法を工夫する。 観点別学習状況評価の理解を授業改善に生かす。
指導力・統率力	<ul style="list-style-type: none"> 学び合う集団づくりに努める（学習規律、安心して学習できる場） 指導技術を高める（発問、言葉かけ、板書、教材・教具、学習形態等） 		
使情熱・使命感	<ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観を尊重する 新しい教育情報等を進んで得ようとする 他者から学ぶ（同僚、管理職、保護者・地域、児童生徒等から） 		

(2) 授業改善につながる「省察」に関わる4つのカテゴリーと16の要素・・・授業観察の視点につながります

(島根県教育センター企画・研修スタッフ平成26年度研究より)

自己省察シート [4とてもあてはまる 3おおむねあてはまる 2あまりあてはまらない 1ほとんどあてはまらない]		
I 比較・客観視力(モニタリング力):他者を通して自己の客観化を図る力		
①	研修や授業研究等で、話している内容をよく聞き、自分との共通点や相違点を探すようにしている。	4-3-2-1
②	研修や授業研究等で、伝えようとしている話の中心を押さえながら聞くようにしている。	4-3-2-1
③	研究授業で、よい面や改善点を探しながら観察するようにしている。	4-3-2-1
④	研究授業で、自分ならどうするかを考えながら観察するようにしている。	4-3-2-1
II 自己実現力(モデリング力):他者のよいところを取り込んだり模倣したりして、自己を伸ばす力		
⑤	研修や授業研究等で得たグッドモデルやエラーモデルを参考にしようとしている。	4-3-2-1
⑥	目標とする理想の教師や実践がある、もしくは理想とする教師像や授業像が明確にある。	4-3-2-1
⑦	研修や授業研究後には必ず振り返り、今後どう生かすかを考えるようにしている。	4-3-2-1
⑧	自己の目標の達成や課題解決にむけて、研修等を含むあらゆる方法で常に情報収集を心がけ、知識等を得ようとしている。	4-3-2-1
III 自己改善力(マネジメント力):課題を確実に認識・評価し改善していく力		
⑨	1時間毎、単元、学期、年度毎に自分の授業を評価し、自らの課題を明確にして授業改善につなげようとしている。	4-3-2-1
⑩	自分の授業改善についての目標や課題、課題設定の理由やその解決手法等について自分と他者の共通点や相違点などを探すようにしている。	4-3-2-1
⑪	児童・生徒による授業評価や授業研究における指導助言を授業研究に生かそうとしている。	4-3-2-1
⑫	普段から、授業について考える時間を持つようにしている。	4-3-2-1
IV 人間関係形成力(コミュニケーション力):I～IIIを円滑にすすめるための人間関係を構築できる力		
⑬	授業について、同僚の教員と、質問や討論をする機会をもつようにしている。	4-3-2-1
⑭	授業中その他で、生徒との対話を重視し、発言しやすい雰囲気づくりに心がけている。	4-3-2-1
⑮	授業について、多くの人から意見をもらうように努力している。	4-3-2-1
⑯	自分の授業実践や教材などを、同僚の教員や校外の教員と共有しようとしている。	4-3-2-1

(3) 授業改善につながる共同省察の7つの要素と研究協議の場における共同省察の視点

・授業改善につながる共同省察の7つの要素

- ① 協議のねらいが明確である。
- ② 授業のねらいと手立てについての話し合いである。
- ③ 児童の姿や反応を基にした話し合いである。
- ④ 児童の姿や反応の背景、変容のきっかけを分析する話し合いである。
- ⑤ 「自分が授業者だったらこうする。」という代案が示される。
- ⑥ 次回や他の授業でこうしようというまとめ（方向性）が共有される。
- ⑦ 全員に話す機会がある。

・学校現場の研究協議の場における共同省察の視点

7つの要素を実現するために、次のような研究協議のポイントが設定されることが有効であると考えられる。

【授業改善につながる研究協議のポイント】

- ① 事前に協議のねらいを確認する。
- ② 抽出児を設定する等、児童・生徒の姿を共有する場を設ける。
- ③ 小グループによるKJ法を用いる。
- ④ 拡大指導案等を用いて、児童・生徒の姿から手立てを検討する。
- ⑤ 代案や方向性を考えるための時間を設定する。
- ⑥ 自己省察の場として、個人の振り返りを書く時間を持つ。

特に②及び⑤については、若手と経験豊かな教師がいる学校などでは全員が意欲的に参加でき、お互いに多様な指導の手立てを増やす場として重要であると考えられる。

⑥については、共同省察を行った上で、自己省察の機会を持つことが重要であると考えられる。

但し、これがすべての学校で有効であるかは明確ではない。共同省察の要素や手立てを、あくまでも1つのモデルとして提案したい。

(4) 「授業力に関する自己診断シート」の項目

4 とてもあてはまる	3 おおむねあてはまる	2 あまりあてはまらない	1 ほとんどあてはまらない
授業力の構成要素と解釈	到達目標 (基本的な行動指針)		段階
〔情熱・使命感〕 児童生徒等のよりよい成長を願って、周囲と協働しながら自らの資質向上を図っていく姿勢	授業に関して自ら課題をもち、日々改善に努めている。		
	授業改善に役立てるために、他の教職員から学ぶようにしている。		
	新しい教育情報を自ら得ようとしている。		
	多様な価値観を尊重する態度や幅広い視野・知識を身に付けようとしている。		
〔構想力〕 学習のねらいを明確にするとともに教材を研究し、見通しをもって授業を計画・創造、改善していく力	目指す児童生徒の姿を具体化し、学習指導要領に基づいた授業を実践している。		
	児童生徒の意識や思考の流れなどに見通しをもった授業づくりをしている。		
	指導内容の系統性や関連性を考慮した授業づくりをしている。		
	指導と評価の一体化を図った授業づくりや授業改善をしている。		
〔生徒理解力〕 集団の中で個の可能性を引き出すために、児童生徒等一人一人の実態・特性を理解する力	児童生徒一人一人や学習集団の実態、特性などを把握し、理解している。		
	児童生徒一人一人の実態に応じて、指導方法や学習形態を工夫している。		
	授業において、児童生徒一人一人が主体的に考えたり活動したりする場を設けている。		
	児童生徒の学習意欲等の向上のために、児童生徒一人一人の姿や変容をとらえている。		
〔指導力・統率力〕 学び合う集団づくりに努め、専門的な指導技術をもとに学習のねらいの達成に向けて授業を実践する力	学習規律の確立や児童生徒が安心して学習できる場づくりや学習集団づくりをしている。		
	かかわり合い、支え合う学習集団づくりをしている。		
	授業時間内に本時のねらいに到達するように組み立て、時間配分し授業を進めている。		
	学習のねらいに向かって児童生徒が学習するために、発問、説明、指示等の指導技術をもっている。		

4. 授業観察実践事例(聞き取りまとめ) <聞き取り校一覧>

整理番号	校種	規模	種類	事例校名	授業観察のタイプ	キャプション
1	小学校	小規模	中山間地	A小学校	よく見て回るタイプ	授業の前後も観察することで変容を見る
2	小学校	大規模		B小学校	問いかけるタイプ	研究授業の成果を普段の授業の改善につなげる
3	小学校	中規模		C小学校	よく見て回るタイプ	子どもの良さを伝えることで教員の授業改善を促す
4	小学校	大規模		D小学校	教員の主体性を尊重するタイプ	単元構想がしっかりと授業をイメージさせていく
5	小学校	中規模		E小学校	よく見て回るタイプ	子どもの様子を中心に観察し、授業者の思いを大切にしながらコーチングする
6	小学校	大規模		F小学校	よく見て回るタイプ	道徳を中心に何でも言い合える学級・学校づくり
7	小学校	中規模		G小学校	よく見て回るタイプ	子どもの様子を中心に観察し、教師の支援のあり方を見る
8	小学校	大規模		H小学校	見守るタイプ	全校で取り組むこと・学年部で取り組むことを共通理解して、徹底して行う
9	小学校	小規模	中山間地	I小学校	よく見て回るタイプ	学校の課題や授業を評価する視点を全員で共有することを重視する
10	小学校	中規模	中山間地	J小学校	よく見て回るタイプ	授業力向上のための重点目標に沿って観察していく
11	中学校	中規模	中山間地	A中学校	見守るタイプ	教職員が自ら相談に来る雰囲気づくりにより、集団を活性化
12	中学校	中規模	中山間地	B中学校	問いかけるタイプ	確かな授業力に基づき…教員にさく！頼る！そして命令でなく語りかける
13	中学校	大規模		C中学校	問いかけるタイプ	授業力向上は、何よりも「授業で子どもと勝負しているか」が基本である
14	中学校	大規模		D中学校	組織活性化タイプ	授業改善のビジョンを明確にし、組織で人材育成を図る
15	中学校	大規模		E中学校	教員の主体性を尊重するタイプ	子どもにどうい力をつけたいか共有させる
16	中学校	大規模		F中学校	OJT活性化タイプ	授業観察に多様な視点を取り入れ、総合的に授業を捉える
17	中学校	中規模	中山間地	G中学校	OJT活性化タイプ	教員同士の雑談が授業論になるような風土をつくり、OJTを活性化させる
18	中学校	大規模		H中学校	OJT活性化タイプ	育てたい生徒像を明確にする！組織を改革し、組織で動かす
19	中学校	小規模	中山間地	I中学校	よく見て回るタイプ	組織全体で価値観を共有したうえで「私たちが…している」といったメッセージを伝える
20	中学校	中規模		J中学校	よく見て回るタイプ	自己診断シートをもとに授業者との授業評価のずれを話題にして助言する
21	中学校	中規模	中山間地	K中学校	OJT活性化タイプ	全ての教師が学校図書館活用を授業に取り入れる仕組みを活用して授業改善を図る
22	中学校	中規模		L中学校	OJT活性化タイプ	マネジメントを工夫し、協働的な組織文化を育てる
23	高等学校	大規模	普通高校	A高校	問いかけるタイプ	校長自身の授業論を語ることで、授業の質を高める授業改善を促す
24	高等学校	大規模	普通高校	B高校	よく見て回るタイプ	授業をこまめに見て回することで教員の授業改善に向けたメタ認知を支援
25	高等学校	大規模	普通高校	C高校	OJT活性化タイプ	新しいことにチャレンジしよう！（積極的にチャレンジしていこうとする気持ちを尊重し、それをバックアップする）
26	高等学校	中規模	専門高校	D高校	見守るタイプ	自分の失敗談を語る！失敗を恐れず試行錯誤することを助言
27	高等学校	中規模	専門高校	E高校	よく見て回るタイプ	授業観察や声かけを積極的に行うことで、教員との意思疎通を図る
28	特別支援学校	大規模	A特別支援学校	OJT活性化タイプ	OJT活性化タイプ	チームの核になる教員に働きかけ、OJTを活性化させる
29	特別支援学校	小規模	B特別支援学校	見守るタイプ	見守るタイプ	「失敗していい。型にはまらなくていい。」やってみることが大事！
30	退職校長	大規模		M中学校	問いかけるタイプ	教師の持ち味や授業の意図をしっかりとつかむことで授業改善への意欲を高める助言ができる
31	退職校長	中規模		F高校	問いかけるタイプ	絶えず新しいことにチャレンジする！ビジョンを決めたら必ず徹底する

よく見て回るタイプ:11校(内 小学校7校) 問いかけるタイプ:6校 教員の主体性を尊重するタイプ:2校
OJT活性化タイプ:7校(内 中学校5校) 見守るタイプ:4校(内 高校2校) 組織活性化タイプ:1校

1 授業観察のタイプ（よく見て回るタイプ） — A小学校の例

研究授業の前後も観察することで変容を見る

【授業観察の特徴】

- ・ふだんから教室をまわる。授業後に口頭でコメント。自信を付けさせるスタンスで。
- ・研究授業では、①指導案を徹底的に見て指導（1対1）②前時（時には前々時）を見て助言することで、本時までの流れが分かり、子どもの変容も分かる。
- ・授業を成立させる基盤として、重視して見ている点
 - 声の大小の調節、メリハリ、変化。
 - 聴く、話す、考える方法や手順はきちんと教える。
 - 授業の途中で評価…子どものよい発表の仕方をその瞬間に誉めて他の子に広げる。
 - 板書は…子どもの発言を全て書かないことも時には必要。対立した意見を板書し、「どう思う」と投げかける。
 - 学習規律…単に行儀よく教師の話の黙って聞く姿等のことではない。全ての子どもが安心して思いを語り合える環境づくりが大切。
 - 机の配置…コの字や車座、外向きなど場に応じて

【めざす授業像】

「多様性」「対話」「沈黙」「待つ」

[そのための方策など]

「沈黙」「待つ」

- ・子どもの声がどれだけ聞こえるか、子ども同士の対話をどれだけ設定しているか。
- ・子どもが沈黙して個人思考する時間を確保する。先回りして結論や解答を与えない。任せて見守る（黙ってよく観察、子どもの言葉を聞く）、すなわち自己選択の機会を保障する。
- ・子どもの発言をすぐに引き取る・まとめるのはNG。子どもに気づかせたり、質問させたりする。

「多様性」「対話」

- ・人と違った考えを大切にする、そのための問いを工夫する。
- ・子どもに対話の楽しさ、対立から新しいものを生み出す楽しさを味わわせる。（ $A+B \rightarrow C$ ）
- ・教職員の対話力を伸ばすことで、子どもの対話力も伸びる。
 - 職員会議での対話：小グループに分かれて協議、KJ法等
 - 職員室での対話：何でも話せる雰囲気、校長が職員室に出かけて会話

【その他の校長の支援】

- ・中央の外部講師を校長の人脈により招く。
- ・本の紹介、研究会や研修への参加の奨励
- ・職員朝礼や職員会議の始めに、時事等から考えたことを紹介
- ・子どもに語れる多様な体験を教師自ら積むことを奨励…休暇・休業中に見聞を広める（読書、旅、等）
- ・全校朝礼を校長のミニ授業と捉え、教員に提供…児童の活動や対話場面を入れる。

【考察】

まず、職員との信頼関係を築いた上で、普段から積極的に授業を見て回るだけでなく、研究授業において、前時や前々時から見て助言するといった手厚い支援をしておられたことが印象的だった。

また、「沈黙」「待つ」「多様性」「対話」という分かりやすく4つに絞ったキーワードで、目指す授業像を共有すると共に、職員室や職員会議での教職員の対話力の向上も目指しておられた。全校朝礼を活用して、校長自らが実践する姿勢を示すことは、教職員への意識付けになると感じた。

2 授業観察のタイプ（問いかけるタイプ） — B小学校の例

研究授業の成果を普段の授業の改善につなげる

【授業観察の特徴】

- ・可能な限り教室を回るよう心がけているが、規模が大きい学校では組織で動かないと難しい。
- ・授業観察リーフレット…町で共通したシートを使用
→参観者が書いたシートを授業者に渡す。校長から集計したものも渡している。
- ・教頭との連携や研究主任への支援。

【授業力向上に向けて～普段の授業の改善～】

- ・研究授業が普段の授業の改善につながりにくい。
- 学力向上の重点的な取組を示す。（校内研究…見通しとふりかえり）
「授業改善＝言語活動の充実」（思考力・判断力・表現力の育成をめざす）
 - （ア）教材や発問の工夫
 - （イ）めあてについての意識を強く持つ
 - （ウ）子どもが思考する場・書く活動の充実を図る
 - （エ）ふりかえりについての意識を強く持つ
→授業改善の具体例・結果として …A, ノート指導の重要性 = B, 板書の重要性
- ◎子どもの学習の足跡が残るノートづくり
ただ写すノートではなく、考えたことが残るノートに
→授業参観シートの活用による授業改善
- ・「授業づくりの3箇条」
 - ①見える「めあて」を提示する。
 - ②子どもが考える場（書く、描く、説明する、話し合う等）をしっかりと確保する。
 - ③「めあて」に対応した「ふりかえり」を行う。
- ・「ノート指導の約束」（①②③⑥は必ず）
 - ①日付を書く ②「めあて」を描かせる ③自分の考えをまとめる（文字で+図や絵で）
 - ④友達の考えを書く ⑤板書を書く ⑥「ふりかえり」を書く
- 3日間各学級を回って、黒板にめあてが書いてあるか、どのようなめあてが書いてあるかを一覧表にする。
 - ・めあてを分析し、課題や今後の方向性を示した資料を職員会議の際に提示し、授業を考える契機にする。
 - ・作業指示型のめあてから学習課題提示型や学習活動提示型のめあてへ。それにとまって、「書く時間」「発表する時間の確保」「話し合う時間の確保」
- 研究授業のまとめから、普段の授業で意識して取り組むことを問いかける。
 - ・重点的な取組に関わって研究授業で見られた「本時の学習課題をつかむ」「めあてを確認する」「目当てを意識して問題に取り組む」「ふりかえりを行う」場面ごとの授業記録とまとめを示し、授業改善のヒントになるものは何か問いかける。
 - ・互いの授業の工夫やそれによる子どもの姿の変容について話せる職員室の雰囲気作り

【考 察】

規模の大きい学校では、校長として一人一人の教職員に合ったきめ細やかな支援をするのは物理的に難しいと思われる。そんな中で、普段の授業の改善に向けて、熱心に教室に足を運んで、感じたことを職員会議で提案されたり、共通して取り組んでほしい大切なことを提案されたりと、学校全体の授業の底上げに向けてリーダーシップを発揮されていた。

子どもの良さを伝えることで教員の授業改善を促す

【授業観察の特徴】

～「日々のクラスの状況を観察して回る」、「校内研究を大切にする」の2つを大切に～

【観察の方法】

- ・独自の授業評価シートの作成

学校の実態としては、ベテラン教師が多い。そのため、教師としての基本的な項目は必要ないと考え、学校の学力向上及び校内研究の視点をもとに項目を設定している。文章の記述を大切に考え、教師の意欲を高めることを目的に数値評価よりも文章での記述を大切にしている。具体的には、授業の構成や指導のよさから表れている子どものよさをできるだけ記述し、改善してほしいことを1～2項目付け加えるようにしている。そうすることが、子どもの学びの理解や授業改善につながると考えている。

- ・助言の時期

学級や子どもをつくり上げている時期の1学期には、学級経営や授業についてあまり言わない。学級が出来上がりつつある2学期からは、取組やそれによる子どものよさを伝えるようにしている。

【授業改善の方策】

- ①校内研究を大切にしている。

授業を見る視点を焦点化し、教師がお互いの授業を参観しあうことが授業改善につながると考える。また、他学年の子どもを知る機会にもなる。自学級以外の子どものことは、休み時間や委員会など授業以外の姿しか知らない。授業の姿を見るとその子どもの異なった姿を見ることができる。

- ②「授業のめあて」を明示し「ふりかえり」の時間も確保する。

年度当初の経営方針の中でも示している。授業参観の際にも、それを重要な視点のひとつにしている。「めあて」はその範囲が広く、それを的確に子どもに明示するには、授業者の技量と工夫が必要となる。経営方針やアドバイスを授業に取り入れようとしている教師の授業は参観するとわかる。そうした柔軟で意欲的な教師は、授業力が高いことが多く、子どもが授業を通して育っていく。

- ③子どもが課題意識をもって取り組む授業を高く評価する。

この実現には、授業者が子どもの学びをきちんとつかんでいることが基本となる。そして、子どもに任せることの範囲を精選・焦点化することも大切となる。そのためにも、校長自身の授業像が確立していないといけない。

- ④子どもの発想やよさを信じる。

近年、学力調査などによって学びの結果を求めるあまり、子どものできないこと（課題）に目を向けがちになる傾向があると感じている。「子どもの考えのよさ」「よさをのばす指導」に目を向けて授業を実践することか大切であると考え、授業参観の際には、校長が発見した子どものよさを伝えるようにしている。

- ⑤授業観察リーフレットの多様な視点は、参考になった。

項目については、学校や教師の実態を見据えて、各学校でアレンジして使うと有効であると思う。

- ⑥校長は常に学ぶ姿勢を持ち続けることの重要性の認識をもつ。

様々な授業を参観して、自分の授業を振り返ることも多い。「よい授業とは」といつも自問自答しながら学び続ける努力を惜しまないようにしている。校長の仕事は、自校の教師が自分らしい授業を実践できるように、全力で教職員を守り、応援することであると考えている。

【考 察】

授業研究に参加したが、協議も突っ込んで指摘するというようなものではなく、授業者の手立ての良さを子どもの姿から見つけ出すような協議で、温かな雰囲気での協議であった。授業者がやってよかったと思うような協議であった。校長が大切にしておられることが反映されていると感じられた。

単元構想がしっかりとした授業をイメージさせていく

【授業観察について】

授業観察では、できるだけ1時間（最低でも半分程度）観るようにしている。単元構想がどうなっているかの視点で観ている。短い場合は、子どもの姿を見るようにしている。教師に関心がないと、子どもの視線が教師を追いかけない。また、机間指導に意図がなく見て回るだけになっていないか観ている。その場合、教師が個別の指導がしている時に、他の子ども達がざわついている。

【授業改善に向けた課題と対策】

〈この学校の課題〉 若手教員が多く、OJTを活性化させながらどのように若手教員を育てるか。

【課題】

10年未満と10年以上との教員で授業には大きな差がある。10年未満の教員には、「いい授業」のイメージがないと感じる。特に単元の意識が薄いから、1時間の授業の単元での位置づけが不明確になっている。

【対策】

まずは「いい授業」のイメージが持てるように研修会・研究会等に積極的に行くよう促している。

【課題】

「めあての提示→振り返りをしてまとめ、学んだことをノートに書く」の流れは良いが、めあての提示の仕方ができてない。なぜ提示する必要があるか、教員に落ちていない。だから、子どもに問いがないまま提示している。そのため、授業が受動ではじまって、受動で終わっている。最後には、「こんなことを勉強したことにしましょう」という感じで教員がノートに書かせて終わっている。めあてが出るまでが重要。子どもに、学ぶ切実感、必然性がないまま授業をしている。

【対策】

単元全体の構想（絵）がかける、つまり自分で単元をつくる力の育成に関わって助言している。

【めざす授業像】

- ・ 学習課題がみんなのものとなっている授業
- ・ しっかりとした単元構想に基づく授業

【考 察】

教科内容よりも、単元を通じてどういう子どもを育てたいかを大事にしておられると感じた。

管理職等の指導・助言の構成要素

- ① どのような授業であったか ……**事実の確定**
- ② その授業の特色や工夫、ロジック等 ……**特色等の明示**
- ③ その特色や工夫、ロジックのどこが良いのか、また問題点はどこか ……**自評と②を関連させ課題を確認**
- ④ より望ましい授業は何か ……**手立てなどの提案（助言）**

《コラム》

左のスライドは県立学校の教頭対象におこなった「授業観察」の研修で使用したものである。通常、研究授業における授業者の自評の流れは、(1)授業仮説（ねらい）や自己課題に基づき、今回の授業でみて欲しかったところ……観点の確認、(2)自分のどういう考えからそうしたか……意図の明示、(3)やってみてどうだったか……自評、となるべきだが、(1)と(2)については、割愛されることが多い。そのため、管理職は普段の授業観察や学習指導案等からそれを読みとる力が必要と思われる。そのうえで、左の①～④の形で、助言することが望まれる。

5 授業観察のタイプ（よく見て回るタイプ） — E小学校の例

子どもの様子を中心に観察し、授業者の思いを大切にしながらコーチングする

【授業観察の特徴】

- ・授業観察では、子どもたちの様子を第一に見る。朝1、2校時のところで全ての学級を回るので、普段は1つの学級の授業をじっくりとは見ない。気になる子どもがいる学級へは、より関わって入っていく。
- ・研究授業の時など、1時間じっくりと授業観察を行える場合は、授業に対する助言を行う。普段は、あらたまって助言する時間を設定せず、職員室にいるときに会話の流れの中で、授業に対する助言を行う場合もある。

【授業観察の視点】

- ・まずは落ち着いて学習に臨める雰囲気づくり。
- ・ベテランの先生が多く、一人一人が自分のスタイルを持っているので、授業に関しては、基本的に教員を信頼して任せる。
- ・教育センターの授業観察リーフレットに載っている観察の視点も取り入れながら、学校独自の授業観察シートを使用している。特に、学校独自の視点として「可視化」に重点を置き観察するようにしている。

【コーチングについて】

- ・基本的には、担任や授業者の思いを大切にしながらコーチングを行っている。
- ・教材についてのヒント等については助言する。

【授業力向上において大切なこと】

○ねらいの明確化 ○子どもと共にめあてをつくりげる ○子どもが思考する時間の確保

- ・授業のめあて（ねらい）をはっきりとさせることが大切。めあてを板書するようにはしているが、めあてをどうやって子どもたちに知らせるかが重要である。子どもたちの疑問点と教師のねらいにはズレがある。学習のねらいに焦点化していく過程を大切にしながら、子どもと共にめあてをつくりあげるような授業が大切だと思う。
- ・教師がしゃべりすぎないことも大切だと考える。教師がしゃべりすぎず、子どもたちが思考する時間を確保することで、自然と「意見交流のさせ方」や「板書の仕方」「まとめの仕方」などが大切となってくる。

【校内研修における工夫】

- ・「可視化をどのように行うか」を研究テーマとしている。思考過程や考えを友達にうまく伝えるためにはどうしたらよいかなど、「思考の可視化」を共通のテーマとして取り組んでいる。
- ・指導案を作成するとき、どのような授業をするとよいか、授業者のみにまかせるのではなく、全員で教材や授業の組み立てを考えるなど、みんなで指導案を考えるようにしている。

【考 察】

聞き取り調査をまもなく終了しようとする頃、学級終礼を終えた低学年の児童が数名、代わるがわる校長室の扉を開けては挨拶をして帰って行った。この光景に、校長が教室を巡回される際、子どもたちの様子を大切にされているという話に繋がるものを感じた。授業力向上や授業改善のための授業づくりは大切となってくるが、そのためには雰囲気づくり（学級づくり）が基本となる。授業観察の際、子どもの様子を見ることを第一の目的とする場合に、ちょっとした機会でも使いやすいような授業観察シートの工夫も考えられる。指導案作成では、授業者だけにまかせず全員で関わっており、組織で授業改善や授業づくりに取り組む姿は重要だと感じた。

道徳を中心に何でも言い合える学級・学校づくり

【授業観察の視点】

- ・授業観察には、毎日必ず回っているが、子どもの姿を見ることを主としている。授業も見ていますが、子どもたちが落ち着いて学習に臨んでいるかが一番大切であると考えている。
- ・「管理職による授業観察リーフレット」に関しては、授業観察シートを学校で作るとなると、授業者との話し合う時間が準備の段階から授業後までそれぞれ必要となり、全教員に対して頻繁に行うことは難しい。また、授業観察しても、少し見ただけでは測れないチェックリストの項目があるし、1時間じっくりと授業を見たとしてもわからない項目もある。しかし、チェック項目自体は、他のものと比べると、授業力向上や授業改善に向けて参考になる項目である。

【コーチングについて】

- ・道徳を中心に進めている。子どもが道徳で何でも言い合える雰囲気を作ることは大切と考えている。
- ・助言のときには、良い点をいくつかあげる。
- ・教科指導については、専門分野に関して、有効な教具などのアドバイスを行っている。

【授業力向上に関わって、校内研修で工夫していること】

- ・道徳を中心に、学校の研究の視点に沿って進めている。
- ・誰もが1回は道徳の授業公開を行うようにしている。
- ・道徳の時間、教室の机の並びはコの字型で行うことをすすめている。互いの顔を見ながらだと、意見を言ったり聞いたりしやすい。
- ・道徳を押し進めているのは、道徳は九九や漢字の読み書きが苦手な子どもも積極的に参加できるからである。自分の考えを述べるとなると言いにくい子どもも、登場人物の立場で考えたことは言いやすい。そして、登場人物の考えを見つめていくことで、自分を振り返り、心を育てていくことができる。
- ・教科の授業に関しては、ペア学習やグループ学習を取り入れながら、その効果的な使い方について研究している。また、山場のある授業を心掛け、授業力向上を目指している。

【考 察】

実際に、校長と共に全クラスを回り、授業を見せていただいた。「子どもの姿を見ることを主とする」とおっしゃったことを実感した。どのクラスも全体的に落ち着いて学習に取り組んでいた。根気が続かず授業から心が離れてしまう子どももいたが、その際には、担任やサポーター、あるいは校長が、授業に向くように丁寧に関わっておられる姿が印象的であった。

また、学校全体で道徳を進めていることは、兵庫教育大学の浅野良一先生が講義の中で話される「一点突破、全員展開」の姿そのもののように感じた。

子どもの様子を中心に観察し、教師の支援のあり方を見る

【授業観察での特徴】

- ・毎日朝に全教室を回る。
- ・ポイント…子どもの様子を中心にみる。特に授業に入りにくい子や朝の挨拶で気になった子、姿勢が気になる子の様子と、その子どもに対する教師の支援のあり方などを見る。
- ・休み時間に「あの子はどうだった。」などと教員に話を投げかけて様子を聞き、必要に応じて助言を行う。
- ・中途面接も活用して助言を行う。

【授業力向上で大事にしてきたこと】

○主に算数の授業実践を通して

- ・個人思考の時間をしっかりとる。
- ・支援によって考えるのが苦手な子にも自分の考えを持たせる。
- ・自分で説明できる力をつける。「早く、分かりやすく、正確に。」

→他教科でも、根拠を持って説明する力を育てることにつながった。

【授業観察リーフレットについて】

- ・観点を多くあげてあるので、実際に助言をする際の参考にする。
- ・口頭の方が細かいニュアンスまで伝わりやすい。

【その他の取り組み】

- ・支援が必要な児童が規模の割に多い。
→管理職からの助言も生徒指導面での割合が多くなる。ケース会議を通して、授業における支援のあり方等についても助言している。また、担任の負担を軽減するための加配等の支援を行っている。

【考 察】

授業観察の際に、子どもの様子を中心に見ておられるが、全校児童の様子をきめ細やかに理解して対応しておられた。小規模で特別な支援が必要な児童が多数いる場合、まず通常に授業ができる状態にもっていきけるように管理職が支援体制を整えたり助言を行ったりすることは重要だと感じた。それによって教職員の力が十分に発揮されると考える。

《コラム》 ～ある地区での取組～

○中学校区の校長で観察シートを作成

- ・前任校で、中学校区内3校長（中学校1、小学校2）が、月1回授業を見合っていた。この時、共通の視点をもつために観察シートを作成したことがきっかけとなって、現任校でも、独自のものを作成した。
- ・元版を自校にあった形にそれぞれが多少アレンジして使用。
- ・中学校区の組織がしっかりできていたからこそできる。

○観察シートは自作のものを使用

- ・アレンジすることが大切。教員はアレンジ力が大切。学校の特徴や実態に合わせ、自校にあったものを作成したほうがよい。
- ・オーソドックスなものがよい。項目数は20～25程度。A4判1枚に収まるようにしている。
- ・「◎・○・△」で評価している。

○講師など若手教員の指導には効果的である。

- ・若手教員に授業の視点を示し、指導するには効果的だが、ベテラン教員には難しい。

○なによりも校長のポリシーを示すことが大切である。

8 授業観察のタイプ（見守るタイプ） — H小学校の例

全校で取り組むこと・学年部で取り組むことを共通理解して、徹底して行う

【授業観察の特徴】

- ・ 普段の授業観察時→職員室や廊下で声かけ
見る視点→児童が学習に取り組む姿勢、雰囲気。板書。机間指導。
- ・ 校内研究での研究授業や6年研、11年研、市教委訪問等の際に1時間の授業を観察。

【授業改善に向けて～学力向上を共通の視点として～】

- ・ 学力調査の結果分析による課題の共通理解
- 全校での取り組み
- ・ 授業の冒頭で見通しを持たせるための、具体的な学習の目当ての確認。日付と共にノートに書く。
→国語・算数ではほぼ全学級で取り組む。
 - ・ 学習したことを整理し、理解を深めるために、授業後振り返る活動をする。学年・学級の実態や教科により、日直がまとめたり振り返りカードを使ったりする。
→国語・算数ではほぼ全学級で取り組んでいる。
 - ・ 校内研究（算数を中心と知る基礎基本の定着）での研究授業や教材研究による授業改善を行う。
→理解が難しい単元を積極的に公開、学力向上に視点を当てた研究
 - ・ 図書館活用教育研究授業により、各教科での図書館活用を深め、情報活用のスキルの向上を図る。
→各学年各教科での図書館活用の年間指導計画を作成。
 - ・ 算数TTを中心とした教材研究の会を毎週1回。
 - ・ 全校体制で自主学習ノートコンクール（年間5回）優秀者の表彰とノートの掲示
→自主的な学習の習慣作り
- 各学年の取り組み
- ・ 各学年で実態に応じた授業における学力向上の取り組みの検討
 - 1年：挿絵や教科書の図の拡大図の掲示、具体物の提示、朝学習の時間や読書等
 - 2年：計算や漢字の繰り返し学習、SS配置を活かした給食準備時間の活用等
 - 3年：ペア学習やペア対話、図書館活用による調べ学習や読書ノート、国語辞典の活用等
 - 4年：各教科の単元計画の共通理解、漢字や計算の大会を通して基礎基本が身につく問題作り等
 - 5年：算数の問題文でのノート指導、タブレット端末を活用した提示の工夫等
 - 6年：板書の工夫、話し合い学習のためのネームプレートの活用、ヒントカード等の工夫等
 - ・ 各学年の実態に応じた宿題の取り組み
保護者の理解・協力、自主学習を互いに見せ合う取り組み、教師のコメント等
家庭学習時間、生活についてのアンケート実施。
- 学年で授業や教材の工夫、宿題の内容や取り組み方についての情報交換が活発化
研修で得た知識等を授業改善に活かそうとする雰囲気の高まり
全校で共通して取り組む意識…下駄箱の靴そろえ、全校朝会時の整然とした態度等

【校内研修における工夫】

- ・ 授業研究協議では、グループ協議やKJ法を活用→ベテランと若手の意見交換ができるように。

【その他の校長の支援】

- ・ 相談員、スクールカウンセラー、スクールサポーター、にこサボ等による担任の負担軽減。ケース会議を通して学級経営や生徒指導についての助言。

【考 察】

学力向上を一つの大きな視点として、まず全校で共通して取り組むこと、各学年部で取り組むことを共通理解する。それを全校で徹底することが大切だと感じた。

学校の課題や授業を評価する視点を全員で共有することを重視する

【授業観察の特徴】

- ・授業観察は毎日、教室に入って。
- ・子どもの様子のお話から入って、指導法について暗に話す。
- ・板書やノートを見る→ノートの形式がバラバラだったので、話し合っただけでそろえてもらった。
- ・共通理解したいことは教職員向けの便りに載せる。押しつけにならないように。

【授業力の向上に向けて】

○課題と目標の共有化

- ・課題の把握→まず子どもを見る、授業者を見る。
- ・めざす学校像の共有化
- ・一つの授業を検討する前に、まず児童観・指導観の共通理解を。

○授業改善のための重点目標

- ・子どもにエンジンをつけよう。（「配慮」と「要求」の質的吟味。引いていく支援）
→本来、子どもは伸びたがっている、追究力があり、開かれた存在である。
「教える場」「まかせる場」「価値づける場」
→学習の見える化（上達感、実態把握→はたらきかけ）
- ・言語活動を充実させよう。…目標にかかわる意図的な言語活動、特に「書く」
- ・授業分析力をつけよう。…目標と評価の一体化
→「ふりかえり」を窓口に自己課題化（適正な授業分析と修正）
→良い授業イメージとその構成要素を共有し、授業改善シートの作成と実施
- ・体験の学習化…つながりのある活動に。点から線へ。「育ち」に注視していくこと
→行事の重点化、目的や目標の明確化、振り返りの充実
- ・読書生活の充実（学校図書館活用教育）
→学力向上の基盤のために…知的な好奇心、知識、読み慣れ、情報活用能力
→豊かな心の醸成のために…人とかかわる読書活動（落ち着いた時間・空間・感情の共有）

○授業評価の共有化

- ・児童の学習活動…課題従事時間（学習目標の達成に向けて取り組む課題に従事する時間）とマネジメント時間（号令、学習準備、体調把握、単純な板書の写し、諸注意、雰囲気作り等の目標と関わらない活動の時間）のバランス
- ・授業者の言葉…「指示」「発問」「助言」「説明」「評価」の5つのバランス。特に助言と説明の言葉の違い
- ・授業を構成する要素…目標と実態との距離（近すぎると意欲低下、遠すぎると見通しがもてない。）
- ・四つの「場」…「出会う場」「まかせる場」「わかり合う場」「振り返りの場」
- ・授業者の役割…「引き出す」「つなぐ」「整理する」「見守る（とらえる）」「価値づける」「教える（分らせる・納得させる）」

→客観的な評価項目について、一つのものさしを共有する

→普段の授業についての会話がかみ合う。クリティカルな同僚性。

【考 察】

研究授業等で一つの授業を検討する前に、まず学校全体の課題を共通理解し、めざす学校像を共有した上で、授業をはかるものさしを共有することを進めておられる。それによって、普段の授業について同じ土俵で意見を闘わせ合う職員集団を醸成することで授業力の向上をねらっておられると感じた。

授業力向上のための重点目標に沿って観察していく

【授業観察の特徴】

- ・授業観察は毎日、教室に入って行う。
- ・写真を撮り、振り返りの際に提供する。共に学ぶ姿勢で。
（例）「書く力を育てる」の視点で、各教員の板書、ワークシート、ノート指導等を撮る。
→各画像に、指導の手立てとそれによって子どもにどのような良いところが見られたかについてコメントを付けて配布。
- ・細かい助言は付箋に書いて、職員室の机の上に置く。
- ・ビデオでも撮っておく。担任自身が撮ったり見たりするのは難しいので管理職の仕事として行う。
- ・教職員に伝えた内容は、教頭にも伝えて共通理解する。
- ・校内研究とリンクしてチェックシートを作成
→「この期間はこの項目だけ」と絞る。項目を多くすると、できなかったことの指摘が多くなり、モチベーションが下がったり、力の入れ所がぼやける。

【授業力向上のためのポイント】

2ヶ月でPDCAサイクルを回す

- ステップアップするような重点目標を設定する。
（例）4・5月 黒板に本時のめあて（学習のねらい）と学習の流れを示す
6・7月 本時のめあてと振り返りを書かせ、めあてが達成できたか評価する
9・10月 自分の考えを書く時間を設け、話し合い活動を設ける
11・12月 課題解決のための発問や指示の工夫をする
1・2月 課題解決のための手立てを工夫する
- 2ヶ月で1サイクル。
 - ・前年度は1ヶ月サイクルでしていたが、それでは振り返りまで行かずに中途半端だった。
 - ・1ヶ月目で中間のふり返り（例）「ねらい、目標、目当てを曖昧なとらえのまま使っていた。」などの気づきが生まれた。
- 重点目標について、分かりやすく解説したものを示す。
（例）課題解決のための発問や指示の工夫」が目標の場合
 - ・課題把握の確認を必ず行う（書く、復唱、チェック等）
 - ・発問や指示は短い言葉で分かりやすく。可視化（短冊黒板等）
 - ・継続した取組（見通しと振り返り、学習活動ごとのカード、書く活動、話し合い活動）
- 単式学級だと切磋琢磨する場が生まれにくい。→互いに学び合える時間とツールを作る。（年代も考慮）

【その他の校長の支援】

- ・教職員のモチベーションを上げる。→長いスパンで指導技術を上げる。基盤を丁寧に。教職員に「応援している」というメッセージを。
- ・年度当初や2学期当初に子どもの課題について最低限のものを確認。

【考察】

比較的若い教員が多い中、長期的な視野に立って教員の授業力を上げていくことをねらっておられた。そのために、視点を絞って短いサイクルでの授業研究を積み上げや、管理職も共に学ぶ姿勢での授業記録や情報の提供などの支援の手を着実に打っておられた。一緒に教室を回りながら、教職員の良い所をたくさん話していただいた。一人ひとりの教職員に寄り添って共に学ぼうとされていることが伝わってきた。

教職員が自ら相談に来る雰囲気づくりにより、集団を活性化

【授業観察について】

- ・ 目的を明確にしない校長の「授業を見せてくれ」は、いわゆる職務命令につながる。特に初任者は、評価者（管理職）に授業を見られるのは少なからずストレスを感じる。
- ・ 教育目標や研究目標達成に向けたストーリーがあって授業観察をすべき。
- ・ 管理職が授業に無関心ではダメである。
- ・ 授業も含めて、困ったとき相談しやすい雰囲気をつくることに心掛けている。

【コーチングについて】

- ・ 教職員が相談に来た時がチャンス。忙しくても、チャンスを逃さないこと。逃したら二度と相談に来なくなる。
- ・ ほんのちょっとした話でも、言いたいことは裏にたくさんあることがある。生徒も同じである。そこを引き出すことが管理職には必要。
- ・ 校長室のドアはいつも空け、敷居が低いという感覚をもたせるようにしている。校長室は敷居が高いという感覚が、校長には乏しいのではないか。廊下も空けておくと子どもも入りやすい。
- ・ 校長になると「人が変わる」人をよく見かけるが、教職員は校長をよく見ている。校長のカラーを見て教職員は言葉をかけるものである。
- ・ 教職員が管理職に物を言わなくなったときはアウト。

【教職員や管理職の資質向上等に関して】

- ・ ソーシャルスキルが身につけていない教職員が多いと感じる。SSTのプログラムが有効。ライオンズクラブと提携して校内研修を積極的に行っている。
- ・ 教員の絆づくりができないと学力向上にはつながらない。学力向上は集団づくりが基盤である。
- ・ 福井県では、昔ながらの教員文化が残っている。これが学力向上の鍵ではないか。例えば、板書計画が大切にされている。
- ・ 「ふるまい向上プロジェクト」の本来のねらいが手段となっている点を危惧している。そもそも、教育委員会と健康福祉部と警察の連携が基底にあった。学校に保健師が入ることが重要であり、保健師が家庭に入って親を指導してもらえる効果は大きい。
- ・ 広島県の取組が参考になる。新学習指導要領の元版は広島の実践。ふるさと教育で学校教育と社会教育が「言語活動」というキーワードで見事に連携している。

【考 察】

管理職が強制的な指導を行うのではなく、教職員が困ったときに自ら管理職に相談できる雰囲気づくりが大切であるという基本姿勢は肝に銘じるべきものであった。ただ、その遂行には、管理職に高い受容性と深い人間性が求められる。管理職の教職員への接し方も、教職員の子どもへの接し方も根底は同じであることを再確認した。

その意味で、「教員の絆づくりができていると子どもたちの成長はない」「学力向上は集団づくりから」という言葉が重い意味を持つ。教職員のソーシャルスキル欠如の警鐘も真摯に受け止めなければならないと感じた。

また、他県の先進的な取組についての知識や深い洞察も、他の教職員の範となっていることであろうと推察された。

豊かな授業力に基づき…教員にきく！頼る！そして命令でなく語りかける

【校長先生の授業論 ～教育センターが示す授業力の構成要素の解釈にそって～】

＜情熱・使命感に関すること＞

※○は授業論、◆は授業観察の視点

○「生徒はこれぐらいできるはず」という教員が自分の価値観を押しつけていては、子どもが苦しい。

◆教師が教科にどれくらい惚れ込んでいるか度合いをみる。

どのような生徒を育てたいか明確か。この学習が将来どのように役に立つか生徒に説明できているか。

＜構想力に関すること＞

○略案は指導案ではない。

授業をどう流すかだけでなく、この授業（単元）を通してどういう子どもを育てたいか、他の授業とどうつながっているか意識する必要がある。1時間の授業を観てもらうには、全体を意識してもらう必要がある。

◆授業に途中から入っても授業の流れがわかる構造的な板書をしている教員は良い授業をしている。

◆「授業は授業者の最初の一言（5分）でわかる。」

・授業が単発的な人（単元構想がない人）はぶつ切れ感が最初に出る。本時のねらいや学習課題の提示がないのはいけない。授業の課題が明確化されているかが鍵。視覚化も大事。できていない人は、最初の板書に「江戸時代の幕開け」とか「経済活動について」など書いたりする。しかし、そうした多くの教員に「経済って何ですか？」と聞くと答えられない。つまり社会的事象の解説をしているだけで、その単元（授業）を通じてどういう子どもを育てたいかがない。ねらいとは、「こんなことしたら、こんなことができるようになる」ことを明示すること。なお、オリジナル教材をつくと得意単元になると教員に言っている。

・教材教具を精選できるのがプロ教師

適切に与えているかをみる。教員の自己満足によって多すぎてないか。外部講師は資料と話しが多い。自分がおもしろいと生徒がおもしろいは必ずしも一致しない。生徒がおもしろいと感じてもらうには、生徒の実態がつかめているかが重要。

・テストをイメージして授業をつくっているか。思考判断をさせていないとテストは知識中心になる。

＜生徒理解力に関すること＞

○感想を書かせることが多いが、それでは自己決定の場にはならない。生徒が自分の良いところを実感できるようにすることが大切である。

◆観るウエイトが高いのが授業力の構成要素の中でも生徒理解力

①生徒と教師が「共感的な人間関係」が授業で築けているか。

②授業に参加しているという「自己存在感」を生徒が実感しているか。

③授業が生徒の「自己決定の場」の機会を保障しているか。

＜指導力・統率力に関すること＞

○教師主導（押しつけ授業、教師が伝えたい授業、一斉授業）と生徒主体の授業（生徒が自ら学ぶ授業）との間の、境界線の授業がイメージできているかが重要。

○学習規律（ルール）が成り立たないところで集団は学ぶことができない。

◆発問力が教員にあるか。

どう答えていいかわかりにくいアバウトな質問が多い。むしろ答えでなく、理由を考えさせる発問が大切。最初は答えを三択などで提示して、考え方の道筋を訓練させていくことも一つの方策である。

【さらなるOJT活性化のために】

・職員朝礼で職員に株価を聞いてみる。これは、幅広い教養を身に付けようとしているかの規準。

・専門教科外を観ることを推奨している。本質が見える。（大卒程度の教養がある）専門外の人にわからない授業は、子どもにもわからぬ。

・授業観察リーフレットは、教職員全員に4月に配布した。観られる点を意識して授業改善をしてもらうため。1人年1回以上の研究授業を義務づけているが、そうした研究授業の視点の1つにしている。

・改善点の指摘ではなく、具体策をアドバイスしながら考えてもらうようにしている。

〔例〕教務主任には、時間割係でなく、カリマネができるクリエイティブな仕事と言っている。

・教員の楽しさ（やりがい）は、授業と学級経営である。授業（マネジメント）ができる教員は、学校経営もできる。授業ができない人は、学校経営も・・・。

【考 察】

教員にきく。頼る。そして命令でなく語りかける。星野リゾートの社長のような学校経営・人材育成の感があった。授業でも、学校経営（人材育成）でも、「共感的な人間関係」「自己存在感」「自己決定の場」を大切にされていることがわかった。学校のビジョンの具体化を職員にも考えさせ、そのよきフォロワーとして校長が応援しているような感じで寄り添い、その中で具体的なアドバイスをしながら、実は教員が校長のよきフォロワーになっているような感じがした。

授業力向上は、何よりも「授業で子どもと勝負しているか」が基本である

授業力向上については、とにかく「子どもで勝負」と考える。

「興味・関心を持って取り組んでいるか」、「学習内容がきちんと理解できているか」など、子どもの表情を見取ることが大切。

そのためにも、講義形式の教師が一方向的にしゃべる授業ではいけない。講義形式では、学習者よりも授業者の方が勉強になっている。それは授業者の自己満足にすぎない。

【授業力向上につながる授業とは・・・】

- ・ねらいを明確にした授業
- ・子どもの反応を予測した授業

- ・「ねらいの明確化」に関しては、『ねらい』と書かれたカードを使って、そこに本時のねらいを提示するなど、毎時間の授業のねらいを生徒達にはっきりと示すことが大切。このことは、学校全体で誰もがあたりまえのようにしている。
- ・「ねらいの明確化」にあわせた「課題設定」も重要。それがないと講義形式になる。
- ・さらに、子どもの反応を予測することも大切。講義形式では子どもの反応は関係ない。子どもの前で何かを提示すると、その反応は大きく二つに分かれる。
 - 「驚き感嘆し、その物(事)自体に興味を示す者」
 - 「その物(事)の目的や仕組みなどに興味を示す者」
 以上の二つである。「どちらがよい」とか「どちらにしなければならない」という意味ではなく、大きく違う二つのタイプがあることを認識し、授業を考え、組み立てていくことが大切である。

【授業改善が効果的におこなわれるために】

- ・教材研究等も含め授業前に時間をしっかりとかけて行うことができれば、成功体験ができ自信へとつなげることができる。ただし、実際には時間がないまま授業となり、なかなか成功体験を得られないことが多い。研究協議や管理職の指導・助言が有効に授業改善の活力となれば、他のクラスで改善し実践することにつながり、そこで成功体験を得ることができる。やる気のでるコーチングが大切であると考えます。
- ・学習ピラミッド（ラーニングピラミッド（学習定着率））の図をラミネートしたものを職員トイレに貼りつけ、目にするにより意識化も図っている。



～「管理職による授業観察リーフレット」の使用について～

以前から研究部の方で考えられた「授業参観表」を使用して授業観察を実施。「授業参観表」と「授業観察リーフレット」とを見比べてみても、「構想力」「指導力・統率力」に関する観察の視点はほとんど相違がなく、自校の授業参観表を継続して使用している。

【考 察】

校長自身の経験から、「教科指導において何が大切なのか」を熟知し、アドバイスやコーチングを行っていらっしゃるように強く感じた。特に授業力向上に関して、「何よりも子どもで勝負」という言葉が印象に残った。児童生徒が主体となる授業や児童生徒の実態に応じた授業が大切となるのは言うまでもないが、そのためには、児童生徒が「おや」と思ったり考えたりしたくなるような課題を設定すること大切となる。そうした「ここ」というポイントを押さえながら、授業観察やコーチングを実施されていた。

「子どもで勝負」という点で、授業観察等による授業力向上も大切だが、それを支える学校環境（雰囲気）づくりとして「あいさつ」は基本となるように感じた。

授業改善のビジョンを明確にし、組織で人材育成を図る

【授業観察・授業公開の工夫】

- ・1年に1回以上、略案による授業公開を全員が行っている。以前は管理職のみの参加だったが、他教職員もできるだけ参加できるよう時間割変更など工夫している。
- ・校長か教頭が1時間全て見るようにし、できるだけ事後に授業者と話すようにしている。
- ・授業後、協議の時間をとるのは実際には難しいので、研究主任が作成した授業公開メモを参加者が記入し、研究主任がまとめて授業者に返すとともに全教職員に配布して、できるだけ情報を共有するよう工夫している。校内研究の進捗状況の把握や研究主任のリーダー育成にもつながる。

【校内研修や管理職の指導に関して】

- ・本校研究の重点である課題の提示やふりかえり、小グループを活用した「協同学習」、ICT活用等を取り入れた授業を公開してもらうようにしている。これによって、指導者（管理職等）や参加者の共通の視点が持てる。中学校では、教科を超えた視点であることが効果的である。
- ・「協同学習」では、生徒が「教え合う」のではなく「聴きあう」関係づくりを大事にして授業づくりを進めている。教員もつい教えることで安心してしまいが、それでは学びが育たない。

【学校経営や管理職の資質向上等に関して】

- ・職員朝礼では、PCのグループウェアを利用し、その日の予定や連絡はパソコン上で閲覧するようにし、時間の効率化を図っている。必要性があればパソコンを開くようになる。生徒指導上の報告については口頭で行っている。また、ハード面の運営については事務職員の力が大きい。授業公開の写真や様子もアップして情報共有に役立っている。今後、生徒指導の情報を蓄積することも必要に感じている。
- ・教職員の机上ができるだけフラットになるよう呼びかけている。机上の整然さと生徒の落ち着きには、関連があるのかもしれない。
- ・教職員の資質向上のために、校長だけでなく教職員にも先進地視察等を行うよう呼びかけている。

【「管理職による授業観察リーフレット」について】

- ・利用しにくい理由として、チェック項目が細かすぎる点があると思われる。焦点化してあると良い。例えば、「ICT利用の視点」、「学びの協同化の視点」など、4つ程度がふさわしいのではないか。
- ・秋田県のように授業のスタイルが全県で統一できている場合は、共通のシートが有効になると思う。

【考 察】

大規模校の場合、組織マネジメントを有効に機能させることが重要であると思われた。組織が大きくなるに従い、いかに事務職員を含めた主任や担当者を能動的に作用させ、同僚性を働かせるかが鍵になるのではないかと。

また、ビジョンの共有化も大きな柱であると思われた。具体的かつ焦点化された教を絞った方針を管理職が示すことによって、教職員はそれをイメージ化でき、授業改善という目標達成に向けたベクトルをそろえることが可能になる。

さらに、校長自身が自ら資質向上に向けた学びを求める姿は他の教職員の範となる。まさに、「学び続ける教職員」の手本を示す管理職のあるべき姿を感じた。

子どもたちにどういった力をつけたいか共有させる

【授業改善を教員が主体的におこなっていくために】

- ・自校の子どもたちにどんな力をつけたいか、全教職員でじっくり話す機会を確保する。
- ・どんな力をつけたいか共有することで、教員間に一本、筋ができれば疲労感も少ない。
- ・子どもの良い反応が得られれば、教員はがんばれる。
- ・しかし、聞きにくいことも含めて、生徒の声を聞くことが大切である。
- ・だから、学期に1度は生徒による授業評価が必要だと思っている。
- ・強制的に行うのではなく、教員が自主的に授業評価をそれぞれの観点とするのが望ましい。
- ・そうした姿勢が、教員の主体的な授業改善につながっていく。
- ・そのことが、結果的に生徒の良い反応を生む。

【めざす授業像】

子どもの意見に子どもが意見を言って、広がっていくような授業

【課題など】

- ・全体的に一斉指導から脱却できないことが課題である。
- ・中学校や高校の教員には、子どもに時間を与えて活動させることが苦手な者もいる。
- ・しかし、能動的な学びを喚起するには、子どもに時間を与えることが大切である。
- ・子どもの意見に子どもが意見を言って、広がっていくような授業にしていくには、教員が教え込むのではなく、しっかり時間をとって考えさせないといけない。
- ・時間がないと考えることもできない。

【OJT活性化のために】

- ・特別支援学校の先生の授業は参考になる。導入の仕方などからも、子どもが見通しをもって授業に取り組んでいることがよく分かる。授業のグッドモデルとしている。
- ・校内研修は、1人1回は授業公開するようにしている。できなくても、教科で1人が授業公開を実施して研究協議をしっかりとしたり、職員を3グループ程度に分けて同グループの人の授業は必ず見に行くようにしたりという工夫をしている。
- ・「板書」「導入」「言語活動」など視点を決めて研究授業や協議を行ってもらっている。そうすれば、他教科から意見を言うこともできる。
- ・初任研や経験者研は、授業改善のよい機会と捉えている。
- ・研修の伝達など、若い教員からはなかなか言いづらいこともある。場合によっては、管理職が復命書などから、その内容を伝える必要があると考えている。
- ・生徒がこの授業でなにができるようになったら成功か、それを意識して助言している。

【考 察】

年度当初に「子どもにつけたい力」について共有できれば、授業改善のPDCAを機能させるうえで大きな手がかりとなる。

また、「共有」といっても、単に共通理解を図るだけでなく、この中学校のように全職員でじっくり協議する時間をもつことが有効であると思われる。

年度途中の教科をこえた授業研究も、その「つけたい力」を確認したり、その力をつけるための手立てを考えたりする好機になるであろう。

授業観察に多様な視点を取り入れ、総合的に授業を捉える

授業観察における3つの視点

①生徒の様子を中心見る場合

校内巡視をしていて、盛り上がりのある授業や整然とした授業など、ある程度の授業の雰囲気は廊下にも伝わってくる。そうした時、気になるクラスがあれば優先して生徒の様子を見に入る。（教室が全ガラス貼りで観察しやすい環境にある場合、廊下からの巡視は効果的である。）

②授業において、ノートの取り方や学習に対する意欲など生徒の活動中心に見る場合

③授業において、板書や授業運営、授業の振り返りといった教師の活動中心に見る場合

いろんな視点から少しずつ見ていることの積み重ねとして授業を総合的に捉えるようにしている。

コーチングに関して

○まず「ほめること」！

子どもの様子や変化が見られた点など、よいところを中心に伝える。肯定した上で、教師の考えや工夫を聞き、アドバイスする。

○コーチングで大切にしている視点

- ・授業の進め方として、わかったものだけで授業が進められていないか
- ・子どもの意見の取り上げ方が上手くなったか

○管理職によるコーチング以上に、若手教員に対するベテラン教員のコーチングが重要

どのようなコーチングをするか、コーチングの時間をどう設定していくかが、管理職のマネジメントが大切だと考えている。研究主任と協議を重ね、組織的な研究体制を構築する必要がある。

授業改善に関わる校内研修の工夫に関して

○毎月一回の「研究の日」を設け、学年部ごとに誰かが授業公開を行い、その公開された授業に関する授業研究を放課後に各学年で協議する場を設定している。

○「ねらい」と「本時の流れと振り返り」を示す授業とするため、全教員に磁気ボードを配布し使っている。

○TTや支援員など、誰かが授業を見ている状態が多く、それらの「ひと」を上手く活用し、「誰かに見られていることを授業力向上へとつなげられるように」と伝えている。

【研究や授業づくりのテーマとしていること】

- ・「授業におけるペア・グループ活動の活用の仕方」
- ・「生徒を主体とした授業」 ・ 「ユニバーサルデザインの授業スタイル」の導入

[授業観察リーフレット]

リーフレットの中の授業観察チェックリストは、自己チェックの指標にもなる。個別に見る場合のチェック表とするとよいのではないかと。特に「構想力」や「生徒理解力」が、授業観察では重要である。

【考 察】

授業力向上のためには、互いに授業を見合い、授業について協議していくことが大切である。そうした時間が定期的に確保され、学校全体での取組となっていることは、注目する点である。授業改善や授業力向上にあたり、学校の実態を踏まえながら、管理職が「しかけ」を作ることが大切であるように感じた。また、ベテランをうまく活用しながら学校内におけるOJTの活性化を図っていることも注目される。

教員同士の雑談が授業論になるような風土をつくり、OJTを活性化させる

【授業論が話題となるために・・・】

- ・「授業観察リーフレット」を使用して授業観察をおこなうと、教員が用意した授業になることがある。
- ・普段の授業から見えることを大切に、そこから見えたことから助言し、授業改善を促していく。
- ・その普段の授業を知るために、週2回程度、一つの授業につき10分程度すべての教員の授業を覗いている。そこで感じたことを伝える場合、感想などを書いて渡すより、とにかく対話を重視している。
- ・校長室に呼んであらたまって話すのではなく、雑談のような感じで話すように心がけている。
- ・例えば、校長自らが職員室にコーヒーを取りに行くついでのような形で気軽な感じで話している。
- ・そのことで、職員間も授業論での雑談等が増えることをねらっている。その効果か、徐々に授業論に関する雑談が増えてきた。
- ・「1学期1人1授業を公開」を義務づけているが、そうしたことに関わらず職員同士でも見合っているようだ。こうした風土が醸成されれば、自ずと授業は良い方向に改善されていくはずである。

【めざす授業像】

- ・「(メモのとれる小学生)、ノートのとれる中学生」 → そのために**板書が構造化された授業**
- ・人の話を真剣に聞く生徒 → **生徒のモチベーションが高まり、主体的に取り組む授業**
- ・確信をもって勉強をがんばったと言える生徒 → **自己肯定感の高まる授業**
- ・勉強が楽しいと言う生徒 → そのための**魅力あふれる授業**

【そのための方策など】

- ・研究主任が中心となり、板書や授業中の生徒の様子を写真にとって、職員に印刷・配布して、協議をおこなっている。
- ・板書の構造化を図るように職員に呼びかけている。
「めあて、覚える（お）、なぜ（な）、考えよう（か）、まとめ（ま）」（職員間では"（めあての）おなかま"カードと呼ばれている）の5つの磁気カードをすべての教室におき、使うように指導している。構造化された板書であれば、振り返りに使える板書となっているはずである。それは、家庭学習にもつながる板書でもある。

【さらなるOJT活性化のために】

- ・研究協議などでは、「この教科は専門でないので・・・」は言わないルールにしている。
- ・きちんとした学習指導案が書ける教員が少なくなってきた。学習指導案の質の向上を大切にしている。

【考 察】

「管理職である前に校長であれ」を信条の一つとし、理想とする授業に向けて日々お互いが刺激しあい、助け合あって授業改善がなされていくよう、校長として教職員の先頭に立って今後も働きかけていきたいという趣旨の話があった。この学校では、全校集会では女子はすべて正座して校長等の話を聴くほど、まじめな生徒が多いとのこと。教員も生徒も何事にも前向きな印象を受けた。これも、対話重視の風土が、お互いの信頼感を生み出しているからではないかと感じた。ちなみに、「東大合格生のノートは必ず美しい」（文藝春秋、2008年）の著者である太田あや氏の講演を聞き、板書の構造化の具体的なヒントを得たという話であった。こうした、自主研修に積極的に取り組むことも、大切なのだと感じた。「やった気になっただけでは伸びない。」校長のこの言葉に、何事にも全力でのぞむ姿勢を感じた。

育てたい生徒像を明確にする！ 組織を改革し、組織で動かす

【授業観察の特徴】

- ・ 道徳教育推進教師等と相談しながら校長が「参観シート」を作成。
- ・ 教室前の廊下を掃除しながら、授業の声だけを聴く。
→ 子どもの反応や盛り上がり方、教師の話す量などがよく分かる。

【授業力向上に向けて】

- ・ 道徳を通して全員が共通理解しながら。
- ・ 中央の講師を呼び、継続して指導していただく。

【学校経営】

○まず校長から動く

- ・ 赴任当初、学校が汚れていて、生徒が掃除しないことが目に付く。教職員も不平不満を言う後ろ向きな状態。
→ 「学校をきれいに」で、まず校長が廊下を掃除。毎日1～2時間（授業の様子を聞きながら）
→ 半年後、生徒会長が「ありがとうございます。」と声を掛ける。他の生徒も「こんにちは」だけでなく「ありがとうございます。」と言い始める。教職員も言い始める。
→ 教職員に改革案を切り出しても大丈夫と判断し、まず「自学」から始める。
→ 土曜日に希望の生徒を学校に出して自学。教職員への手当てを模索したが無理だったのでボランティアで。現在、200人程度の生徒が参加。中3は実態に応じて3クラス（補充、発展等）

○組織改革

- 赴任当時、学年主任が50代のベテラン。型通りの学年経営→個性ある学年経営
→ 2年目は30～40代を学年主任に据える。分掌上の主任は動く人、副主任はベテラン。
30代の学年主任は、赴任当初の授業を見て実力を判断した。
（わずかな期間で生徒一人一人の状況を掌握していた。）
→ 50代のベテランは、若手を育てることを願う。
→ 職員間の緊張感が生まれる。新しい試みが生まれてくる。
大規模校は組織で動かす。学年主任を動かす。去年と同じことをしてはだめ。実力主義で。

○育てたい生徒像の明確化と地域への発信

- ・ 人のために取り組む子、将来帰ってきてがんばる子、市の存続のためにも→地域のあり方を共に考える。
→ 自学ボランティアを地域の人に依頼。
地域学習の中で、市長や市立病院長も講師に。（仕事内容ではなく、子どもの頃の様子や志をもったきっかけを話してもらう。）
・ 意欲や活力が学力の向上につながる。夢をもち、それを志につなげる。（人のために）
→ 生徒指導上の問題の減少。研究指定を前向きにとらえる教師集団

【考 察】

大きな構想力と地道な努力、率先垂範と一点突破、校内の組織改革と地域への発信等によって、教師集団を変え、それによって生徒が変わっていった。校長のリーダーシップによって、学校が活性化していると感じた。最後に「校長が教職員に育てられていると思っている。」という言葉が印象的だった。

組織全体で価値観を共有したうえで「私たちが…していこう」といったメッセージを伝える

【授業観察で大切にしていることや工夫している点】

- ・授業観察を学校として活かしていけるようなものにしたい。授業観察により、子どもの変容を把握することができるので本校では特に重視している。
- ・授業観察後に授業の協議を行い、価値観を共有することで協働して取り組むことへの移行を図る。また、協議の中で子どもの変容ぶりを伝えることで、授業者の達成感へとつながるようにしている。職員同士の中で共有化した価値観については、「職員室だより」にまとめ配布し、説明するようにしている。また、授業観察の実情等については、校報等を活用し、説明するようにしている。
- ・小規模校ということで、職員同士の価値観も共有しやすい。こうした小規模校ならではの特徴を活かしながら授業観察等を行う。
例えば、校長自ら授業に生徒と共に参加し、授業者からの有効な言葉がけなどを自ら体験することで、子どもたちの目線に立った授業観察も時折実施している。

【コーチングに関して】

- ・基本的には、授業者が達成感を味わい自信へとつながるような言葉がけを心がけている。
- ・共有化をすることが芯柱
「目指したい子どもの姿等」の共有化を図りながら、子どもの変容や授業者の効果的な発言などを伝え、より良い授業像を描けるようなコーチングを心がけている。
「目指す授業」の共有化を図ることも大切。その意味でも授業の協議（ふりかえり）を大切にし、共有化を図っている。

【授業力向上や授業改善に関して】

- ・毎時間の授業において、「どんな子どもに育てたいか（どんな力をつけたいか）」というような目標を設定することが必要であると考えている。ねらいを明確にして授業に取り組み、授業後においてはその過程を振り返る。このようなことを連続的・継続的に行うことにより、授業力は向上するようになるものと考えている。
- ・「ねらいの明確化」に関しては、単にねらいを提示するのではなく、めあてが子どものものとなっているか、そのための課題が子どもたち自身のものとなっているかが大切。その意味では、ねらいにせまる課題設定のあり方が重要。ねらいを明確にし、子どもたち自身が必要性を感じるような課題が設定されて初めて、発問の仕方とか板書のあり方などといった授業方法についての議論が始められる。

[授業観察リーフレットについて]

- ・リーフレットは、一時間ずつの授業を観察する視点と単元あるいは年間を通して観察する視点とが混在しているので、リーフレットを参考にしながら、独自の観察の視点で授業観察にあたっている。
- ・リーフレットを使用することが目的ではなく、活用していくことが大切。授業観察後に授業者へ返せる物、返された物を見た授業者が意欲へとつなげていける物として考えている。

【考 察】

聞き取りを行っている間、「価値観の共有」という言葉を何度も繰り返し使われた。組織とは、共通目的を持つ二人以上の人々が、目的を達成するために、意思疎通を図りながら協力して働く集合体である。共通目的を再確認したり意思疎通を図ったりする上で、価値観の共有は大切となる。価値観を共有し、組織力を高めていくことで、「協働による学校づくり」を目指していることが話の中からよく伝わってきた。

また、授業観察におけるコーチングでは、メッセージの出し方に配慮をしておられるように感じた。授業観察後、授業者に単に「あなたの授業は…」ではなく、子どもたちの目線で校長自らが感じられたメッセージや、価値観を共有することから生じる「私たちが…していこう」といったメッセージなど、自然と「Iメッセージ」「Weメッセージ」となるように心掛けておられるように感じた。

自己診断シートをもとに授業者との授業評価のずれを話題にして助言する

【授業観察での特徴】

○授業公開

- ・全職員が年1回は授業公開。養護教諭、栄養教諭も。
- ・「管理職による授業観察リーフレット」を全教員に配布。
- ・リーフレットをもとに独自の自己診断シートを作成。
 - 自己の「授業力」向上に関わる課題を明らかにすることから始める。
 - 「使命感、熱意、完成」「児童・生徒理解」「統率力」「指導技術」「教材解釈、教材開発」「『指導と評価の計画』の作成・改善」の分類で計44項目について授業者と管理職が4段階で評価。
 - 授業後に、授業者と管理職が自己診断シートに記入し、つきあわせた時の両者の評価にずれがあった項目について話し合う。
 - 授業を評価する視点について授業者に気付きを促すことで、授業改善につなげる。

○普段の授業観察

- ・教室に入って観察。学級の雰囲気を見る。子どもが難しい問題でも集中して解いているか等。
- ・人間関係づくり…職員室に積極的に入って声かけ

【授業力向上について】

- ・教諭時代の授業力向上で工夫したこと
 - 授業研究を積極的に行う。書籍にあたる。積極的な研究会めぐり。視点を明確に。
- ・経験が少ない教職員には、先行事例をたくさん集めるよう勧める。
- ・経験のある教職員は、子どもによって柔軟性を持って授業ができるように。
 - 「自分自身の教案を創れ。」
- ・OJTを進める。同僚によって変わる。横とのつながりを大切に。固執せずに、自分をかえることをうながす。

【校内研修における工夫】

- ・全職員で、教科部会で、学年部会でそれぞれに授業研究を行う。
 - 学年部でも見合うことで、子ども理解が深まる。
- ・テーマは「学力育成」そのための授業力向上。
 - 教職員評価を活用し、学力向上の視点で目標設定。

【考 察】

普段から積極的に職員に声をかけ、授業観察をし、授業観察シートを準備して積極的に助言するなどの取り組みを地道に積み上げておられる誠実さと、教諭時代から続く授業力向上への熱意を感じた。また、「自分自身の教案を創る」ことの大切さを強調されていた。確かに、全て自分で教案を考えてこそ自己課題化ができ、授業のどこを見てもらいたいか、どのような意見がほしいかが本人にとって明確になる。最後に「自分は教員に支えられている。」と言われたのが印象に残った。この姿勢が校長のリーダーシップが良い方向に発揮されるための重要な要因だと感じた。

21 授業観察のタイプ（OJT活性化タイプ） — K中学校の例

全ての教師が学校図書館活用を授業に取り入れる仕組みを活用して授業改善を図る

【授業観察での特徴】

- ・どんな場面で…①学校図書館活用授業 ②校内研究授業 ③授業公開日 ④教室巡回
- ・どんな視点で…教材解釈・授業構成・指導技術・評価技法
- ・「管理職による授業観察リーフレット」を参考にして独自のものを作成
→その時間で観察・評価するものと素素の授業等から見るもの両方を意識して作成。

【授業力の向上に向けて】

- ・学力育成ビジョンの提示
- 習得…家庭学習習慣の定着、「学習の手引き」の活用、自学ノートの活用・工夫、月例テストの定期的な実施、定期テストの計画づくり、夏期及び冬期学習会への参加、本時のねらいの提示と振り返り
- 活用…学校図書館活用教育の実践
 - 年間を通した各教科等における学校図書館を活用した授業の実践（約160時間）、言語活動を取り入れた授業実践等
 - 学び合い授業づくり、ペアやグループ等の小集団学習、ワークシートやホワイトボードの活用
図書館を活用したスキル学習の実施
- 探求・実践…総合的な学習の時間の展開、地域貢献・社会貢献活動の実施等
- ・学力育成の取り組み状況把握←授業観察、学力調査結果の分析等
- ・教頭、研究主任との情報共有
- ・学校図書館司書との連携、情報交換
- ・校内研修及び授業研究協議への積極的参加
- ・教職員評価面接での指導助言
- ・「学習の手引き」の有効活用
- ・学力向上に関する生徒講話
- ・県外先進校視察と成果の普及

【学校マネジメント】

- ・学校経営の方針や重点の提示・説明…各学期初めの職員会議
- ・「第2期島根教育ビジョン21」「しまねの学力育成推進プラン」等の提示・説明
- ・物的環境の整備…教室巡回（机、椅子、ごみ、黒板、雑巾、掲示物等）、校舎巡回とフィードバック
- ・生徒の学習状況の把握…教室の授業観察（廊下から）、廊下や教室掲示、ねらいやめあての確認等
- ・特色ある教育活動の把握…読み語り、フィールドワーク、全国読書週間の取組、ボランティア活動等
- ・講話で生徒の美点に言及…集団、学習、規律、礼儀、思いやり、教室環境、地域信頼等の観点から
- ・職員会議や朝礼で教職員の仕事の成果に言及…前年踏襲でない新たな取組や生徒の変容等の観点から。
- ・教育に関する最新情報の提供…「月刊教職研修」「小中学校校長研修資料」「新聞記事等」
- ・校長室通信の月2回発行と情報収集
- ・学級通信への一言コメントの記載…学級指導への感謝と生徒への好影響の観点から
- ・教職員への言葉がけ…活動ごとのねぎらいの言葉と生徒への好影響の観点から
- ・不登校及び不登校携行の生徒と欠席者の日々の把握
- ・養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センター指導員との連携 等

【考 察】

学校図書館活用を柱の一つとし、そこに全ての教師が関わる仕組みを作って活用しておられる。学校司書は小学校教諭として長い勤務経験があり、協働して授業を行うことで教師の授業力が向上していると感じた。

マネジメントを工夫し、協働的な組織文化を育てる

【授業観察の工夫】

- ・校舎内を随時回る。主に授業の雰囲気、生徒の参加度合いを見る。
→授業の後に気づいたことを口頭で。ほめて伸ばす方向で（→各教員の「自己目標」を念頭に、期待感を伝える）。
- ・学習規律の徹底を繰り返し伝える。
開始・終了の時間、授業中の姿勢、聞く・話す態度…教科指導と生徒指導の一体化（生徒指導の機能を生かす）→生徒が落ち着く→教材研究の時間が増えることにつながる。

【授業力向上の取り組み】

（1）マネジメントの工夫

- ・学力向上を最優先することについて教職員に周知する（年度当初にビジョンを明確化する）。
- ・方針を浸透させるために、見える形で示す（→教職員の意識改革につながる）。
新入生の部活への正式入部を4月末にする。（中学校生活への適応と「学習」を最優先することの意識付けをねらう）。
諸活動の優先順位を教職員にも明確に示す。…①学習②生徒会活動③部活動
放課後に補習があれば最優先する（誰が誰の補習についているかが分かるように掲示）。
- ・各教科の授業の質を上げる。
全教科共通の取り組みと各教科独自の取り組みを明確にする。
→学校全体で取り組むことを研究部で検討→職員会で検討→全体に浸透（＝ミドルリーダーの育成と校内組織の活性化をねらう）
- ・学校評価に反映させる。…年度当初に目標と具体的方策を提示→年度末に評価するという見通し

（2）協働的な組織文化の醸成

- ・やる気にさせる働きかけをする。
- ・指導力のある教員を生かす（例えば、授業でうまくいったことなどを職員室で話題提供）。→授業力向上への意識の高まりと職員室の雰囲気づくり

【授業改善に関わる校内研修の工夫】

- ・全教員で研究授業→研究協議に参加（話題を共有して、だれもが意見を言う）。
- ・研究部で「授業観察シート」を作成。全教科共通で取り組む項目（研究主題に沿って設定した5項目の視点）を中心に研究授業を参観する。
- ・ねらいの明確化、ふり返り、個に応じた支援、ICTの効果的な活用等の視点から意見交換を積み重ねる（→授業改善に資する研究協議）。
- ・「学習支援シート」（一人一人の学力、関心・意欲・態度、配慮事項の記載）を活用する（→きめ細やかな指導の充実）。
- ・特別支援学級の授業公開への積極的な参加を促す（→「授業のユニバーサルデザイン」への意識付け）。
→授業に臨む姿勢、見通しを持たせる工夫、集中させる工夫、情報伝達の工夫等を参考にしよう。

【その他の授業改善・学力向上に関わる取組】

- ・小学校との連携…6年生を対象に各教科で「出張授業」を実施する。
- ・補習はほぼ毎日…予定・実施状況を掲示板に記入、小テストの結果や課題提出の状況を参考にして生徒の参加を促す。
- ・家庭学習…各教科で毎日の学習課題の工夫→確実に見て返す（生徒のフォローアップ）
- ・教職員の自己目標評価シートの活用…指導内容・指導方法の工夫、数値目標の設定→目標達成に向けた普段の声かけや助言、意欲や実績の積極的評価に努める。

【考察】

「学力向上」という一点突破をめざし、教職員に見える形で共通の取組を示し、やる気にさせる働きかけを行うことで、協働的な職員室の雰囲気をつくっておられた。それによって生徒が変容していくことは、職員員のモチベーションをさらに上げることにつながると感じた。

校長先生自身の授業観を語ることで、授業の質を高める授業改善を促す

「共有」・「協働」 みんながつくりあげた目標にむかって（それを見える化して）みんなでがんばる

【校長先生の授業論一端】

○自分の言葉で教育（授業）が語れるか！

「教育の目的とは、なぜ学ぶのか、魅力ある授業とは」、これを自分の言葉で語ることが重要。

授業の不易と流行。「教育の目的」とリンクした「教科を通じて付けたい力、めざす人」を自分の言葉で語れることが重要。それがないと教え込みになる。例えば、学校のグランドデザイン検討アンケート（生徒にどんな力を付けさせたいか。どんな人物に育てたいか。学力をこの学校ではどう定義すべきか。など）を自分の言葉で書いてもらい、面接資料として使っている。学校全体の合意形成にもつながる。

○教材解釈力、教材作成力が重要！ ～自分で教材を解釈し、自分の言葉で伝える～

指導書を見て何を教えるかでなく、自分で納得したこと、理解したことを教える。自分で自分の授業の教材をつくる。そのことで、「めあて」が明確になり、軸足も生徒に向く。

○板書を構造化する！

例えば、京大式カードで板書案をつくる（余白や裏に要点や授業の流れ、ネタなどを明記）。

授業1時間を黒板1枚で完結させ、授業の見通しや振り返りがしやすいようにする。

【めざす授業像】

- ・ 1（教師）対1（生徒）×40（クラス生徒）の授業
- ・ できる子も満足する授業
- ・ 活動がなくても脳が喜ぶ授業

主体的に生徒が授業に取り組むことと、活動することは同義でない。学ぶ意義を感じる授業かどうか。

【授業観察について】

○授業を観る場合は1時間しっかり観るようにしている。

授業は生き物でありメリハリがあるもの。単元でもメリハリがある。山がどこにくるか、1時間観ないと判断できない。さらには、1年間継続的に観ていかないと本当の助言はできない。

少しだけ観た場合は、コメントをあまりしない。また、1時間観た場合は、授業の最後に生徒の感想を聞き、その生の声を教員に届けるようにしている。また、教室の前から生徒の顔を見るようにしている。

○参観している自分が引き込まれるような授業かどうかが良い授業かどうかの判断の一つ。

○授業観察の土壌となっているのが大学時代に作成した「授業観察観点一覧表」。

若いときに真剣によい授業とはどういうものか考えたことが全ての根幹になっていると感じる。なお、その後何度か加筆修正したものを、学校で配布している。

○教科独自のことはむずかしい。教科で評価の観点はやはり違う。その特性を大事にしたい。

他教科のことは、悪い部分はわかって、教科特性に応じた良い部分は専門でないとわからない。

[その他]

○学校独自に作成したユニバーサルデザインの観点に基づく授業参観記録用紙がある。

○授業改善の取組を、教科で話し合いまとめたものを提出させている。

○「授業のめあて」を板書で明示するよう指示している。

○年2回の生徒による授業評価を授業改善に活かすようにしている。

【考 察】

すばらしい授業実践者は、すばらしい授業観察者、そしてすばらしい校長になれると感じた。

授業をこまめに見て回ることで教員の授業改善に向けたメタ認知を支援

【授業観察の特徴】

- ・短時間でも数多く、多くの教員の授業を観るようにしている。教員の授業を肌で感じる事が重要。
- ・だから、突然校長先生が観に行っても、参観者が来ても、教員は驚かない。
- ・授業を観に行く時は、ICT 機器を携行し、折に触れて撮影している（生徒は写らないよう配慮）。撮った画像は、アドバイスの時や面談の際の材料にしている。実際の授業場面を見ながら話すと、授業者も自分の授業を第三者的に見ることができる（メタ認知）。
- ・授業を観る時は、仮説をもって教員をみるようにしている。「こんな人かな、こんなことを授業のねらいにしているのかな？」…その後の対話などの中で、違うと思えばまた仮説を変えてみる。そのためにも、違うと感じれるほど授業をみるようにしている。教員自身も、自分のやりたいことがわかっていないことや整理できていないこともあるから、メタ認知できるよう支援するためのコーチングはとても重要。

【めざす授業像】

- ・生徒が考える授業
- ・自己肯定感を高める授業
- ・1(教員)×1(生徒)×40(クラスの人数)の授業
- ・ユニバーサルな授業
- ・教科外の人が見ても（ねらいが）わかる授業

[そのための方策など]

- ・点数のみで生徒のレディネスを判断するのではなく、学習スキルや認識スキルやそのレベルが生徒一人一人違うので、それを意識するよう伝えている。
- ・授業のねらいを必ず書くように指導している。
- ・教科外の人が見てもわかる授業だからこそ、校長が見ることに意義がある。校長がいろんな教科を見てわかる状態は、生徒もわかるということ。

【指導・助言の例】

- ・生徒がこの授業でなにができるようになったら成功か、それを意識して助言している。
- ・アドバイスでは、それでどういう力を生徒に付けようとしていたか聞くようにしている。あるいは、それを気づかせるようにしている。
- ・コーチングとは、絵を描いている人に終始寄り添って、（こういうところが）いいねと言ってあげることと思っている。だから、その人がやろうとしていることにそってアドバイスをするようにしている。その人がやろうとしていることがわかるようになるため、数多く授業を見るようにしている。また、ねらいが誰にでもわかるように指導している。
- ・気どらず、何が課題でどうすればよいか、できるだけ気づいたことを言うようにしている。

【考 察】

校長が、教員一人一人の資質をよく理解されていると感じた。だからこそ、適確なアドバイスができていたと感じた。また、より理解するために、よく授業を見に行っておられる。

生徒には何事にもすぐ反応するように言っておられるとのこと。聞かれたらすぐ答える、すれ違ったらすぐあいさつするなど…。そのためか生徒のあいさつがとても良い学校であった。

当日見た英語の授業は印象的であった。ICT 機器を使い、英語の本文を投影し、みんなでスクリーンをみながら考える授業。本文のどこを学習しているかわかるように電子黒板的にも使っておられた。生徒がとてもいきいきしていおり、英語のペアワークにも積極的であった。最後には、Wi-Fi でつながった ICT 機器で、簡単な小テスト（振り返り）をすることもされていた。

新しいことにチャレンジしよう!

（積極的にチャレンジしていこうとする気持ちを尊重し、それをバックアップする）

【授業観察について】

～学校にいる時は毎日授業観察をするようにしている～

3学年1日1回短時間でも（多くは廊下から）見て回っている。

その際に生徒の顔を見るようにしている。そのため、教室の後ろからだけでなく前のドアからも観ることが多い。

校内にいる時は、業務よりも優先して授業に限らず教員や生徒の様子をみるようにしている。

なお、年度当初に授業観察の件は教員に伝えているので、校長が授業を観ることに抵抗はない。

【授業改善に関わって】

◆出張等で見聞きした良い授業や取組（実践事例）は機会をとらえて必ず話すようにしている。

◆教員の県外研修や視察を奨励

学習指導要領の改訂も見据えてアクティブラーニングに注目している。そのため、教員の県外研修や視察を奨励している。そのマネジメントをするのが校長だとも思っている。

◆授業公開期間

学期に1回、2週間の期間でおこなっている。カードに感想等を書き、個人のレターケースに入れておくことになっている。この期間に限らず他の授業を積極的に見に行くように指導している。

【めざす授業像】

"与えられる授業から自ら動く、自ら学ぶ授業へ" …… 教員も与えることに慣れていた
"演習でも前を向く授業"

関連して、アクティブラーニングの中でもジグソー法に関心を持っている。グループ学習に有効性は高いと思っている。ある教員が2学期から積極的に取り組んでいるが、成績も向上している。この例に限らず生徒主体の授業が校内で多くなってきた。ポータブルのマグネットタイプのホワイトボードを使った授業をはじめ、ICT機器を使った授業、iPadを使った授業、Wi-Fiを使った授業など先進的な取組をしている教員が増えつつある。このため、授業研究で、生徒の反応などに関する意見が多くなってきた。生徒のレディネスや背景なども話題になってきている。これまでは、専門的な解釈などが中心であった。とてもよい傾向である。

一方で、授業以外に生徒の主体的な取組の機会をできるだけ確保するようにしている。特にプレゼンに関することは、生徒の力をかなりつけることになる。

【考 察】

「授業がおもしろいと生徒が言ってくれると教員は工夫する」という校長の言葉が印象的であった。この学校では、センター試験に向けて地歴2科目をとっている生徒が多いとのこと。進学校では、地歴1科目公民1科目にしているケースが多いと聞く。地歴を2科目とる生徒が多いのは、それだけ地歴の授業に魅力があるからではないだろうか。受験があるから勉強するのでなく、授業がおもしろいから、興味が沸くから、疑問が沸くから、だから勉強する…まさに生徒主体の授業となっているのではないだろうか。

その根底には、校長が、教員が積極的にチャレンジしていこうとする気持ちを尊重し、それをバックアップする姿勢をとっておられることがあると感じた。

自分の失敗談を語る！失敗を恐れず試行錯誤することを助言

【授業観察での特徴】

- ・観察では、授業を進めるテクニック以外のところを中心にみる。例えば、生徒理解や支援的な要素を中心に観察し、サポートするようにしている。生徒は十人十色であり、一人一人の生徒がどのような状態で授業に臨んでいるかが何よりも大切である。それゆえ、生徒理解や支援的要素が授業づくりの上での基礎・基盤であると考え、これらを中心に観察しサポートしている。
- ・「管理職による授業観察シート」は直接使用をしていない。ただ、リーフレットをもとに、授業づくりなどの話をする際のツールとして使用可能と考えている。
- ・若い世代は、教職経験も浅く不安が多い世代。そのため、声かけやサポートがより大切である。各科でも科長を中心にその点を心掛けて実践している。

【コーチングについて】

- ・自分の経験談として、失敗事例を話すことが効果的である。
- ・経験を積んだ教員はキャリアがあり、少々きついことを言ってもめげることはないが、初任者は、こちらが思っている以上に不安を抱えていたり緊張したりしている。経験談を話しながら、失敗から学ぶことも多いので、「失敗を恐れない」ことを助言している。試行錯誤することで自分の力となる。ちょっとした失敗も糧となると考え助言している。

【授業力向上や授業観察について】

○分かりやすい授業 ○ねらいの明確化と見通しを持たせる工夫 ○個別の支援

- ・特別支援教育の視点に立ち、ユニバーサルデザインの構築を図りながら授業を行っていく必要がある。最近では、生徒が多様化し、発達障がいやグレーゾーンの生徒が増えてきている。そうした中、どの生徒にとっても、「分かりやすい授業」ということが大切となる。
- ・「ねらいを明確に」や「見通しと振り返り」と言われているが、分かりやすい授業とするためには、とても大切なことである。そこで、本時の予定を書いたり、ねらいを明確に提示したりすることは、全教員が気をつける点として心掛けている。
- ・学習遅延者には、授業がやりっ放しにならないよう、放課後や試験前に個別指導を行うなど、個々への支援も大切にしている。

【学ぶ意欲の向上について】

- ・最近の生徒の傾向として、学習（学力向上）に対しての食欲が少なくなってきたと感じられる。「ゆとり世代だから…」とは簡単に片付けられない。
→学習と部活動の二本立てで引っ張っていく。資格取得や検定試験など、目的意識を持たせる。キャリア教育の充実を図る。

【考 察】

道徳や学級活動等において、教師の体験談を話したりすると、生徒は興味を示し食い入るように話を聞く場合がある。それと同様に、コーチングの際に先輩教員を含め管理職の成功談や失敗談は、若手教員にとって参考となることが多い。ただ、成功談の場合、聞き手にとってハードルが高くかけ離れすぎている内容だと参考にしにくい面もある。そのため、コーチングでは、少し手を伸ばせば届きそうな、「やってみようかな」と思わせるような声かけや働きかけが大切であると感じた。

授業観察や声かけを積極的にすることで、教員との意思疎通を図る

【授業観察のスタンス】

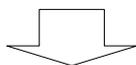
- ◆管理職研修での講師のアドバイスを受けて、校長と教頭は、できるだけ授業観察をしている。出張や特別な行事がない日には、3～4回、廊下を回っている。生徒の表情を見るようにしている。
- ◆管理職研修での講師のアドバイスを受けて、授業者の精神的負担にならないようにしている。授業観察中は、あまり難しい顔をしないようにし、授業後は授業者に必ず声かけをしている。かける言葉は指導方法に関する深い内容ではなく、気付いた長所を簡潔に述べている。

【授業で心がけてきたこと】

- ・メリハリのある授業
- ・授業開始時刻には授業を始め、延長授業はしない
- ・ICT機器を積極的に利用した授業

【授業力向上や授業観察で大切なことや校内研修で工夫していること】

- ◆管理職が授業観察をする際には、授業者や生徒が萎縮しないように気遣うことが大切だ。また、授業後には管理職が必ずアドバイスをすることと「おつかれさま」の一言をかけることが大切だ。
- ◆授業力向上のためには、本音で厳しいことも指導できる存在が必要である。指導力のあるベテラン教員が少なくなっているのが問題である。ベテラン教員の授業力向上、指導力向上も大事な視点である。
- ◆全ての教員が年間1回は自分の授業を公開し、年間5回は他者の授業を参観するようにしている。授業を公開した場合は、アドバイスシートをもらい、自己反省を書いて教務部に提出している。
- ◆生徒による授業評価アンケートも、年間2回実施している。教員は、アンケート結果をもとに自己評価や自己課題を書いて教務部に提出している。



校長はアドバイスシートや授業評価アンケートなど全てに目を通し、声かけやアドバイスをする際の参考にしている。

【考 察】

特別な秘策があるわけではなく、研修で受けたアドバイスや教育センターから提供された物を活用しようとする校長の柔軟さや、厳しさの中にも人間的な温かさがある人柄が、教職員によい影響を与えていると感じた。

同日に行われた体育の公開授業も時間通りに始まっていた。授業者は、公開授業直後の指導主事との面談の際にジャージから着替えていた。服装については時と場合をわきまえるようにという年度当初の校長からの指導を覚えていたからであったようだ。校長の指導が、教職員に浸透していると感じた。

チームの核になる教員に働きかけ、OJTを活性化させる

【授業観察の特徴】

- ・特別支援学校はチームティーチングが多い。授業の基盤として、チーム力が重要になる。
- ・校長の授業観察で、よく見るところ→教材・板書・子どもとの関わり。
個人の力量に関しては本人に直接言うが、チームティーチングに関わる部分は、チームの核になる人にさりげなく伝える。チームティーチングは組織として改善していくことが効果的。
- ・各チームのチーフ教員には、発達に関する理論や先行事例の紹介・資料提供を行い、視野を広げるマネジメントを重視する。（押し付けにならないよう配慮）
- ・ミドル教員の授業改善に向けて→外部講師の活用（大学教授、指導主事、外部専門家等）
専門性の高い外部講師の助言は、経験を積んでいるミドル教員にとっても受け入れやすく、授業改善への意識が高まりやすい。

【コーチングで心がけていること】

- ・それぞれの教員が自分の得意分野を持つことが大切。自己有能感を持ってほしい。それが仕事に前向きになる活力となる。（例えば、発達理論、摂食指導、カウンセリング、進路指導等）
- ・得意分野を見つけることを、初任者には強調して言う。その分野の先輩を見つけることも伝える。
- ・経験を積んだ教員は、ある分野での専門力（卓越している）があるので、それを見つけてほめる。それによって、自分が努力しているところが評価されたという思いにつながる。
「管理職による授業観察リーフレット」は良いところを見つける観点の手がかりとして活用している。

【授業力向上や授業観察に関して】

- ・特別支援学校では、一人で授業を構築する場合もあるが、複数の教員で話し合いながら授業を構築するチームティーチングが多い。そのため、チームの中で、先輩を見て学んだり、技術を身に付けたりしている所がある。チームの先輩が若い人をOJTによって育てているので、指導者役の人に働きかけることが重要となる。
→「ぜひ、あなたの力で、若い人を伸ばしてほしい」と伝え、OJTへの自覚を促す。

【校内研修における工夫】

- ・大学教授などの外部講師に繰り返し授業研究に参加してもらう。
→前回の反省を受けた授業改善の結果が明らかになるため、改善への意識の高まりと、それに伴う自己課題化ができてくる。
- ・授業研究の教案に、作成者が「ここを見てほしい」、「この点でのアドバイスがほしい」と明記し、授業研究協議の焦点化を図る。
- ・チームで話し合って教案を作っているため、校内の研究授業では、個人の力量の部分とチーム組織の両面の視点で協議を行っている。課題については、チームとして共通理解を図り、対応を検討している。

【考 察】

特別支援学校のチームで動く、チームで学ぶという特性を生かして、ミドル層や若手それぞれに合った授業力向上の取り組みをされているのが印象的だった。その中で、組織を使う、外部講師を上手く活用する、職員のモチベーションを大切に授業観察や助言をするといった取り組みが良い効果を生んでいると感じた。

「突進していい。壁にはまらなくていい。」 やってみることが大事!

【理想とする授業像】

- ・子どもの困り感にそった授業
- ・子どもに「わかった」「発見」「気づき」のある授業
- ・子どもの自立をうながす授業
- ・安易に教員が手を貸さず、困った時にどうすればいいか考える子どもを育てる授業
 数学は答えを出すことで、おもしろさがわかる。しかし、解き方を教えてもらってから解くことが多い。そうではなく、やらせてつまづかせてから説明する。わからないところをつくってから説明する。

【授業研究の工夫と活性化】

- ◆研究授業があった時は、必ずビデオにとる。
 授業を観られなかった教員向けに昼休みに職員室でビデオを流す。気軽に見られることで、授業改善を普段のものとする。情報の共有という点でもビデオは大事にしている。
 また、職員室には当日は付箋の貼れる模造紙を掲示し、授業研究を行う前に、参観者全員が項目別に付箋を貼っておくことになっている。それらの内容を研究主任があらかじめチェックしておき、研究協議ではそれを切り口に活かすことで、授業研究を最初から焦点化された状態にして行うことができる。
- ◆協議はマトリクス法を使っておこなう。
 付箋をはる模造紙は、マトリクス表を用いている。そのマトリクス表は、学習指導案の最後尾にもつけることになっている。そのマトリクス表の視点は、基本的に同じにしている。また、ピンクの付箋紙は「よかった点」、ブルーの付箋紙は「課題となる点・改善点」としている。
 [マトリクス表の視点] *マトリクス表(法)は、教員研修センター『教員研修の手びき』などに詳しい
 ①学習内容 ②授業の展開について
 ③教材・教具について ④発問や声かけの仕方について ⑤その他
- ◆板書等をタブレットで撮る。
 板書は子どもの思考が表されたものになっているか。子どものノートやワークシート等も含めて授業研究の際にスクリーンに投影して協議することもある。
- ◆学習指導案は、授業者がねらいや組み立てを自分の中で明確にされていること。
 学習指導案は形式を含め、教員にわかるように伝える工夫と表現力をもって作成する。
- ◆その他
 学期ごとに一定の期間で全員の授業公開週間を課している。

【考 察】

職員室で授業ビデオを流すというアイデアはとても良いと感じた。なによりも、教頭が校長とともに授業研究に積極的であることが、授業改善を活性化させていることの要因にもなっていると感じた。一方で、校長が教員の前向きなチャレンジを受容し、それがしやすい雰囲気をつくっていることが根底にあると感じた。

「保護者は、子どもに障がいがあることで負い目を感じることもあり、また周囲からこれまで責められてきたと感じている方もいるので、そのよろいをとってあげることも大切。親が責められた気持ちになると、子どもにマイナスに跳ね返ってくる。そのため、子どもだけでなく、親の気持ちも受けとめることが重要となる。特別支援学校の使命として、子どもが理解できなければ、それは子どもの責任ではなく教師側の責任とし、わかるように、そして考えることができるようにもっていくことが大切。また特別支援教育においては親が障がいを受容していることが重要。特に聴覚障がいはきこえないことを他人に自分から示していかないと、わかってもらえないことが多い。だから本人も障がいを認識していることが大事。そうやって子どもが変わることで、親が変わることもある。だからこそ普通の授業を大切にする。そこが教師の頑張りどころである。」という校長、教頭の話は、自分の教育観を振り返る契機にもなった。

教師の持ち味や授業の意図をしっかりとつかむことで授業改善への意欲を高める助言ができる

【授業観察の視点】

- ・子どもの実態と本時のねらいの妥当性
- ・指導者の立ち位置（指導者の動線を含む）を確認
 - 本時の目標、学習内容、学習過程、学習活動に基づいた計画的な営みの有無
前がよいのか、近くでそっと話すのがよいのか、無意識にしていることが多い。
- ・学習内容と学習活動にかかる学習形態の様子（グルーピング等）
- ・子どもの顔つきと指導者の目線
 - 問いに対してどう反応するか、子どもの反応を見る。
指導者は全体を見ているのか、個を見ているのか。
- ・指導者の発問と発言における声の大きさ・強弱・トーン・スピード等
- ・発言する子どもの声の大きさ・強弱・トーン・スピード等に対する指導者の指導
- ・教室内の音環境等の環境整備状況（椅子の雑音等）
- ・多様な教材の活用状況
- ・教師五者論：「学者」「医者」「役者」「易者」「芸者」の視点を持つ。

【授業観察（コーチング）をする上で必要なこと】

- ・学習指導案がしっかり読み取れていないと、「点」のみに終始する。
 - 指導者の意図と大きく異なると、指導者の意欲を減じてしまう。
「線」「面」上の位置づけを把握することが必須。本来のコーチングは意欲化を図り、自らステップアップに挑むようにするお手伝いをするこゝとであると捉えている。
- ・教材や多面的な指導方法の情報提供により、指導の幅を広げてもらうきっかけになる。
- ・対象者の優れている面、不得意な面等、実態を可能な限り熟知すること…持ち味をつかむ

【教諭時代の授業で心がけたこと、及び授業力向上のために必要なこと】

- ・一人ひとりを生かす授業（多様性を生み出すために）
 - （例）筑波大学附属小学校の先生による公開授業において、1時間の授業の中で学級全員の児童に声を掛けた授業を参観。
- ・学習集団を活かすこと（学校本来の役割）
 - ひとりの学習活動等を集団に活かす（考えを広げ深める仕掛け）。
- ・批判的思考力を育てる授業を構築すること
 - いろいろな考え方をさせせる教師の投げかけ
- ・自分の授業の前と後の授業の教科を考える。
 - 前の授業如何で子どもの意識も変わる。
→授業の導入と終わり方を工夫…その日その時間の子どもの実態に合わせた授業づくり
- ・指導と評価の一体化を図ること
 - 子どもの動きや取り組む姿勢を自分の授業の鏡（評価）とする。
- ・1時間の間に、必ず全部の子どもが充実感をもてる場を設定する。
- ・一つだけの本時の展開にしないこと
 - 計画は綿密に実施は柔軟に

【考 察】

授業観察・コーチングにおいて、各教職員の意図していることや持ち味をしっかりと掴んだ上での助言を大切にしておられると強く感じられた。そのために、教案をじっくり読み込んだり、実際の授業の中での教師の意図的な取り組みを様々な視点から観察したりすることを重視されている。

絶えず新しいことにチャレンジする! ビジョンを決めたらぶれずに徹底する

【授業観察の特徴】

- ・毎日午前1回、午後1回全教室を回る。1つの教室に1～2分、廊下から見る。
- ・生徒の姿勢（参加する態度）から教師の引き付ける技術（力量）を見る。
←一生懸命に授業に臨んでいれば姿勢が前向きになる。（附属中宮崎先生の指摘から）
- ・板書の工夫（生徒が見やすくなっているか、色チョークの使い方はどうか）
- ・教材教具の使い方（視聴覚機器の活用等）
- ・できるだけ良いところをほめて、やる気を引き出すように努める。（面接時を中心に）

【授業力向上や授業観察で大切なこと】

- ・新しい試みを提案（例：現代文において、短歌、和歌、作文→校内掲示や新聞へ投稿）
- ・外部講師の活用（例：選択科目で地域講師を多く招聘）
- ・毎年同じ内容で授業をやらない。
- ・最初の5分が大切（授業に向かう雰囲気づくり）興味を持たせる工夫と学習規律の確保
- ・教師が「できません」ではなく、生徒が「どうすればできるか」を考える。→数字で示すことが大切→成果が見えなければ先生もテンションが上がらない。

【校内研修における工夫】

○学校全体で決めたことは徹底する

（1）分かる授業の実践

「10の視点」を教員と一緒に作成

→年度始めに各教科でどの視点を重点にするか話し合ってもらう。

→年2回（6月、10月）の授業公開旬間に他教科の授業を含めて3回以上の授業参観を義務付ける。

→公開する授業者は見てほしい視点を明示したシートを作成。参観者（外部も招く）はシートに記入（できるだけ良いところを）。教務部がとりまとめて授業者へ渡す。授業者はそれをもとに振り返りシートを作成し、教務部、管理職と回覧。

（2）生徒に見通しを持たせる授業展開

- ・各授業時間に、その時間に行う内容を黒板に掲示することで、生徒に学習内容の周知と、時間の見通しを持たせ、授業に集中させる。

○研究協議…少人数にして意見が出やすいようにする。→10～15人ずつのグループを作り、部屋も分けて。

【学校経営や管理職の資質向上等に関して】

- ・その学校のミッションをよく理解し、自分のビジョンをきちんと作り、教職員にきちんと浸透させる。
- ・絶えずアンテナを張り情報収集に努める。
- ・研究指定・教員派遣については積極的に受け入れる。
→研究指定を進んで受け、そのプロジェクトのための人を集め、校長とのホットラインのある組織を作り、場と時間とお金を確保する。
- ・どんな学校を創りたいか、よい学校とは、を常に考えて、カリキュラムマネジメントと人材育成を考える。
カリキュラムマネジメント→慣例にとらわれない、学校設定科目の活用、教科間のセクト主義を排除
人材育成→一点集中全面突破、スタッフを置く、自分でやらずに本人に任せ、責任を取る覚悟。
- ・絶えず新しい試みを行い、組織に波風を立てる。→原則、主任は50才まで。
- ・外部との連携、校長のトップセールス→校長が出ると相手もそれなりの人が動いてくれて話が進む。

【考察】

ミッションを理解してビジョンについて考え抜いて結論を出したら、ぶれずに徹底させることを強調されていた。授業改善の取り組みも新しいことにチャレンジさせて学校を活性化させる取り組みも、実践は本人に任せて責任は校長が取るという姿勢を示すことで教職員のやる気が高めたことが重要だと感じた。

5. 付録

・管理職からの役に立った言葉かけ集(初任研・経験研受講者等対象の「授業観察」・「授業改善」に関するアンケート調査より)

管理職からの助言等で、授業改善に役に立った具体的な言葉(「 」で紹介)や指導内容など	
管理職の経験談などからの授業づくり論や学級経営論	「ゴール(授業のねらい)を意識して授業づくりを行うこと。」「教員が話し過ぎないこと。」
方向性を示す内容や多面的な見方を示す内容について	「学ばせたいことは子どもの口から言わせる。」
「教師の話す時間を短く。(子どもの思考・活動時間の確保)」	「テンポよく進めていくこと。」
「単元計画についての見直しを立てること。」	「教師の発言は最小限に。」
「子どもに対する指示や質問の言い方や表情に注意すること。」	「生徒の目線に合わせる。」
考えたり話し合ったりする手段の獲得について	「ねらいをきちんとすること。」
板書計画の改善点、児童の反応や理解度について	「児童が発表するまであせらず待ちなさい。」
「教師の話が長すぎる」	「単元で授業を構成すること。」「授業中の指示・発問を精選すること。」
「(音読の)目的を伝えてからさせること。」「ICTの活用や掲示がすばらしいね。」	「教員自身の筆記用具の持ち方に気をつけよう。」「一点突破していくと、自然と全体が動き出す。」
授業づくりの手立て(ユニバーサルデザイン)、分かりやすく話すポイントについて	「待つだけでなくいく。」
「若いうちは良い授業を見なさい。」	「授業中はZ型に教室を見渡すこと。」
「子ども同士をいかにつなぐかが大切。」	「板書をまっすぐ書くために立つ位置を工夫するように。」「沈黙をつくるのも大切である。」
「子どもの思考を深める問い返しの発問をしなさい。」	「発問を精選すること。」「授業の流れを提示すること。」「板書計画を立てること。」
「話す量が多いから生徒に考えさせる時間をもう少しとること。」	「教室全体の中で授業する際に死角になりやすい席がある。」
必ず労いの言葉をもらうので意欲が沸く	「子どもたち主体の授業づくりになるとよい。」「教師の説明が多い。」
「一生懸命やった失敗はOK。」「力をつけてなんぼ。」	「子どもの顔を見て話を聞くこと。」
生徒のつまづきポイント、説明や指示・板書の仕方について	「一番伝えたいことを子どもに言ってもらえる授業(発問)をする。」
「子どもが腑に落ちる言い方を。」	「活動を切り換えると授業に参加していなかった子が参加するきっかけを作れる。」
「子どもの発言する授業づくりを目指そう。」	「板書とICT教材のバランスを考慮すること。」「実生活と実験をつなげた授業展開にする。」
見直しを持った授業展開、生徒の実態把握について	「自分が話すより生徒に話をさせる意識が大切である。」
悩んでいる授業の見学とその授業への助言	「今何をする時間なのかを明確にしなさい。」
教材研究(教員の予習)について	「目標を一つにしぼって授業をつくること。」
「授業につまったら生徒にバトンを渡す。」「板書とメモは違う。」	「日常生活に結びついた内容の学習をもっとした方がよい。」
「あなたの授業はおもしろそうだ。」	「常に全体を意識して授業を進めること。」「手立が必要の子にはできる限り寄り添うこと。」
声の大きさとめりはり、間の取り方について	「目的・目標を明確化しよう。」「人権・同和教育の視点を持った授業を心がけること。」
「生徒の実態に合った授業を。」	「生徒同士が伝え合う授業をしてください。」
「階段をふみ、焦らないこと。(学習計画の構築)」「失敗を恐れない。(公開授業のチャレンジ)」	「友だち同士での関わり合う時間設定が良かったので継続して欲しい。」
「生徒の発言をしっかり拾うこと。」「実態に合った指導をすること。」	「(ステップの課題について)課題内容を易から難、考えさせる課題の順で与えると良い。」
「発達のとらえを授業に生かす。」「目標を明確にして生徒にも分かるように伝える。」	「特性ある生徒を利用する。」「個性を生かした授業展開をしよう。」
「子どもの発言・反応を待つ。」「子どもを信じて待つ。」	「自信を持って説明したらよい。」
「授業で”わからない”と言える安心感が必要。」	「文法を活用した方がよい。」
「子どもの感想などを次の授業に生かすこと。」	「扱う教材に気をつける。」
「学び合いを大切にすること。」「授業のタクトを大切に。」	「挙手や発言で分かっているかどうかを確認しても、分からない子はどう見つけ出しますか。」
「教材から何を学ばせるか考えること。」	「いろいろな生徒がいるから、難しい面もあるが楽しい。」
「生徒の発言を授業に生かしていない。」	「言語活動の場を増やすこと。」「やりたいように自信を持ってやれ。」
「生徒が自ら動く授業をしよう。」	「分かりやすい発問ほど、核心をつく答えが返ってくる。」
「子どもをよく見ること。」「一時に一事。」	「板書をつめて書きすぎないようにすること。」
「発問が”なぜだろう”という理由を問うものばかりにならないこと。」	「なぜこの取り組みをするのか生徒に説明しても良い。」
「授業のめあてを生徒に言わせよう。」「発問の主旨が生徒の発言にあわせてゆらいている。」	「授業の中での実験はしっかり理解させ、授業展開をしていくこと。」
「授業の目標を達成するためのICTの活用であり、学び合いでないといけない。」	「理科好きの子どもを育ててください。」
「1時間のねらいを板書すること。」	「授業の流れを黒板に書くのが大切である。」
発問の仕方や投げかけの言葉に関する具体的な励まし	「(準備した手立ての使い方に関して)もっと子どもに操作させ考えさせるとよい。」
「年間を通してやっていくこと。」「新しいことにチャレンジしよう。」	「教員は子どもにとって一番の教材である。」
「体育の授業が生徒の楽しみの居場所にしよう。」	「ねらいをたて、そのねらいを意識した展開で授業をすること。」
自分の授業の良い点の指摘	「自分らしさを出す授業をすること。」「普通の授業をしないようにすること。」
「評価の仕方を観点別に行う。」	「授業は”心”が大切である。(心で感じ取れる指導をしていくことの大切さ)」
「生徒の実態に合わせてゆっくり進めること。」	「山場でしっかりほめること。」
「生徒が動きやすいような設定をしよう。」「教員は動かなくて…」	「本や演劇などの自分を高める芸術鑑賞をして言葉や考えを豊かにすること。」
「やりたいようにしてみよう。」「それでいいですか！考えがまだ足りないのでは。」	「自分の強みをつくること。」
「生徒の実態把握をしっかりおこない、課題を明確にすること。」	「子どもをほめる時にどうしたら伝わるかをより追究すべきだ(手話なども含む)。」
「休憩から授業モードに切りかえさせてから授業を始めること。」	「数学が得意な人の説明は、数学が苦手な人にはわかりにくい。」
「小学校ではあたりまえのめあてと振り返りをした方がよい。」	「ねらいをはっきりさせなさい。」「授業記録をきちんとさせなさい。」「板書計画をすべきた。」

聞き取りをした校長に提供してもらった資料（資料1）

【授業づくりの視点…大切にしたいこと】

○情熱・使命感

① 教師が教科にどれくらい惚れ込んでいるか。

- ・教科を通してどんな生徒を育てたいのか、生徒にどんな力をつけさせたいのかが明確になっている。（学習指導要領をふまえて）
- ・今、学習していることが将来に役立つということを実感させる。（キャリア教育の視点）生徒の「〇〇を勉強してどうなるんですか…」という質問にどう答えるか。
- ・プロの教師なら「自分の担当する教科が好き」と生徒に言わせたい…。

そのためには、

日々の教材研究、知的好奇心、幅広い教養（政治、経済、歴史、文学等）、柔軟な発想 など

※ 「週刊ダイヤモンド」「日経 TRENDY」「mono マガジン」など、世の中の動きをキャッチする…。

○構想力

① 単元構成がしっかりとできている。… 学習指導案の基盤にあたるどころ

※単元構成ができないと、教科書を教える授業になってしまう。…その日暮らしの授業（特に社会科…）

例 江戸時代（15時間）をどのように授業構成するか。

教科書の配列に忠実に従い過ぎると平板な知識詰め込み型の授業になっていく危険性がある…。

※指導の基盤をつくるためには、学習指導要領等を繰り返し繰り返し読むことが大切。研究授業が大チャンス。…基盤のない略案は本来は指導案とは言いにくい…

② 1時間の授業の流れがしっかりとつくられている。… 発問や展開、まとめなど。

- ・授業の始めに課題が明確化（特に視覚化）されている。
- ※この1時間で何をするのか、何を学ぶのかが生徒が明確にわかる。または、1時間の道筋が見える。
- ・授業の終わりにふり返りの時間をつくる。
- ・板書がきちんと構造化されている。…ワークシートが増えると板書が雑になってくる傾向がある。

③ 教材・教具を適切に与えている。…生徒にとって魅力ある教材をつくる

- ・1時間に与える資料の数 … 多過ぎなく、少な過ぎなく

- できれば手づくり感のある資料を…。※市販のものやインターネット等で引き出したものでもいいが、提示した資料が教師自身のものになっているかどうか…。

※教師自作の教材、資料は、生徒を惹きつける…。

- 地域教材を可能な限り取り入れている。(生徒の興味関心を高めたり、教師自身の授業力を高めるのには、とても効果的であるが…)

④テスト問題が適切に作成されている。…指導と評価の一体化

- 各観点が整理されているか。 … 知識理解ばかりの問題になっていないか…。

※日頃の授業の評価を考える際に、テスト問題をきめ細かに作成することは大切。テスト問題の作成は授業力の向上に大きな役割を果たす。

○生徒理解力…生徒指導の機能を生かした授業づくり

①教師と生徒が受容・共感的な人間関係が確立されている。(共感的な人間関係)

- 教室に漂っているあたたかな雰囲気。— 安心・安全な空間

※ぴりっとした中でも安心できる空間をつくる。

【教師の笑顔、明るいつーンの口調、よく通る声…】

②生徒に自己存在感をもたせる。(自己存在感)

- 授業に参加しているという実感。教師と仲間と一緒に授業をつくっているという実感。

【小グループを効果的に活用。】

単にグループの形にしているだけでは、グループ学習ではないということ。

全員発言ができているか。たとえ意見が言えなくても、「分からない」ということを仲間に伝えているか…

※すぐにグループとしての意見をまとめるのではなく、そこでじっくりと考えや意見を出し合うという学習が必要。

③生徒の自己決定の場が保障されている。(自己決定の場)

- 自分の考えが発表(発言)できる。

※ワークシート等に考えや意見を書かせる場合は、どこがいいのかということのを的確にコメントする。(良いと思うところに青ペンで下線をひく。など…)

- 小グループの中で自分の考えや意見を発表する。

○指導力・統率力

①聴かせる授業から、生徒が主体的に学ぶ授業を…

「聴かせる」→「聴いてもらう」→「生徒が自ら学ぶ」→ …

※生徒の実態把握がどれだけできているか

- ・主役は生徒。いかに生徒が食いついてくる授業をするか。そのためには、教師は一人一人の生徒を思い浮かべながら教材を作成、選定し、それをどのように展開していくかというストーリーを考える必要がある。

②学習規律が確立されている。

- … 生徒誰もが授業は分かりたい、実力をつけたいと願っている。ルールが成り立たないところでは集団で学ぶことはできない。

③しゃべり過ぎない、教え過ぎない…技術 — 教材をどう精選するかがプロの腕前

※プロの教師と地域講師との大きな違い

- ・いかに生徒に語らせることができるか。
- ・いかに生徒が自ら学ぼう、追求しようとさせることができるか。

④発問力

○「〇〇についてどう思いますか？」→ 生徒が十分に答えられない…。

- ・何を答えてよいのか分からない。… 発問自体に問題あり
- ・答えられない。… 発問の仕方を工夫する

例 「〇〇については、□□という考え方と△△という考え方、さらに××という考え方が一般に考えられるが、どの考え方をとりますか？ 理由をつけて教えてください

※こういったことを地道に取り組んでいくことで、生徒の思考力・判断力・表現力を育てていく。

聞き取りをした校長に提供してもらった資料（資料2）

（授業観察の素養となっていると思われる）ある校長が学生時代に作成された覚書
（国語科用）

1. 全体

- (1) 指導者の態度
 - ・生徒の信頼を得られる態度であるか。
（落ち着き・教養・誠意・熱意等の印象から）
- (2) 指導者の位置は適切であるか。
 - ・個別的になってはいないか。
 - ・指名した生徒と距離を保っているか。
（1対1とならぬため。生徒の声の通りを確認するため。）
 - ・机間巡視は取り入れられているか。 （今は、「巡視→指導」）
 - （学習者の把握。学習者との一体感。意欲を促す。）
 - ・板書するとき、板書を利用して説明するときの姿勢は適切であるか。
（必要以上に学習者に背を向けていないか。）
- (3) 指名
 - ・全体にわたる指名となっているか。
 - ・複数指名など工夫された指名がなされているか。
- (4) 音声
 - ・小さすぎず、また大き過ぎはしないか。
 - ・ゆっくりと分かりやすい物言いであるか。

2. 板書

- (1) 文字
 - ・丁寧であるか。
 - ・誤字・脱字はないか。
 - ・書き順は正しいか。
- (2) 学習内容は構造化されているか。
 - ・語句単位で板書され、一文の長さは10字を超えないという原則は守られているか。
 - ・標題は示されているか。
 - ・板書から、学習目標・学習内容が分かるか。
 - ・前時の内容の板書への組み込み方は適切であるか。
 - ・授業の展開を予想させる板書が工夫されているか。
（ だけ示して、それを後で埋めていくやり方など）
 - ・視覚的な（図・グラフなど）表現が工夫されているか。
 - ・板書中の山は、はっきりしているか。
（色チョークの使用など）
 - ・番号・記号の使用は適切であるか。
（→ ・ = ・ …… ・ ～～ の区別など）
 - ・板書の順序は、右→左、上→下など、機械的になっていないか。
 - ・同じ言葉は二度書かないようにされているか。
 - ・板書したことが消されていないか。
 - ・板書内容にはつながりがあったか。途切れてはいないか。
- (3) 読解内容だけでなく、解釈の内容が板書されているか。
- (4) その他
 - ・要求している答えとピントのずれた答えの板書への取り入れ方は適切であるか。
 - ・板書計画以外のふくらみを持たせることができているか。
（重要語句の板書など）
 - ・板書内容は生徒の発問から、という原則は守られているか。

- ・（一文を一語にまとめる時など）板書語句の難易差はどうか。
- ・生徒に書かせてみたりする工夫はなされているか。
- ・生徒に作業させている時は板書しないようにしているか。
- ・板書したことが有効に使われているか。
- ・板書するタイミングは適切であるか。

3. 発問

- （1）授業を進めるための発問だけでなく、考えさせる発問が考えられているか。また、その組み合わせ方は適切であるか。
- （2）発問の量
 - ・全部で20を超えていないか。
 - ・考えさせる問い（一問で5分ぐらい持つ問い）が、1時間に2～3つ用意されているか。
- （3）発問の精選
 - ・発問の意図は明確であるか。
 - ・発問によって、授業の展開が分かるか。
（精選された言葉で、順序よく配列しているか。）
 - ・一つの発問で聞けることに、二つ以上の発問をしていないか。（発問の量をできるだけ少なくするために。）
 - ・発問を、同じ次元で言い換えしていないか。
（繰り返すなら同じ言葉で。言い換えるときは観点を変えて。）
 - ・発問の内容は、生徒の能力に適しているか。
- （4）その他
 - ・考えさせる問いの切り込み方は適切であるか。
 - ・生徒の反応を確かめた上での発問であるか。
 - ・発問によって、生徒の注意力を喚起し、揺さぶりをかけることができているか。
 - ・発問の語尾など、問いかけの仕方に配慮がなされているか。
 - ・誤答・ピントのずれた答えを、正答に導くための発問に工夫がなされているか。
 - ・発問の解答範囲は、はっきりしているか。

4. 教材解釈

- （1）読解だけにおさまらないで、解釈まで入っているか。
- （2）教材解釈の妥当性はどうか。
- （3）教材解釈のポイントの置き方は適切であるか。
- （4）教材解釈から出た、目標の設定は適切であるか。
- （5）教材に適した方法が取られているか。

5. 授業構成

- （1）導入
 - ・時間のかけ方は適切であるか。
 - ・単純（分かりやすい）かつ効果的であるか。
（効果的…雰囲気作り。関心の喚起。前時からのつながりの明確化。本字の学習目標の明確化など）
 - ・効果的であるような工夫がなされているか。
- （2）内容への切り込み方
 - ①通読の仕方は適切であるか。
 - ・いつ（授業の最初・中途。後半など。説明の前・後など）。
 - ・誰が（範読か。指名読みか。指名読みの人数は適切か。）
 - ・どれぐらい（本時の内容に適した分量であるか。）
 - ・どのように（着眼点をはっきりさせて読んでいるか。）

・以上のことに配慮を凝らし、工夫をしているか。

②教材のどこから入るか。

・本時の目標・内容に適した部分からの入り方であるか。

・教材への興味・関心をそそる入り方であるか。

(3) 展開

①授業の展開には流れがあるか。

②展開に工夫はなされているか。

・初感の求め方と、その使い方は適切・有効であるか。

・作業（辞書を引くことなど）、グループ学習（生徒のやりとり）の取り入れ方、その程度は適切であるか。

・資料（実物・「論語」など）、プリントなどの工夫はあるか。

・作品自体から離れた事項の取り扱い方は適切であるか。

（文学史・作者・背景などの触れ方。文法・語句など国語の基本的事項の事項の説明の仕方など。）

(4) まとめ

・まとめがきちんとなされているか。

・まとめが指導者からの一方的な説明となっていないか。

・生徒の意見の収束の仕方は適切であるか。

6. 学習指導案

(1) 誤字・脱字はないか。番号が付してあるか。

(2) 「学習活動」「指導上の留意点」の両枠内で、レベルは統一されているか。

(3) 目標が明確であり、目標のための「学習活動」となっているか。

(4) 授業の流れ、授業のヤマがわかるかどうか。

(5) 計画の量は適切であるか。

7. その他(この項、「1. 全体」ともつながる)

(1) 指導者に、前回の批評会で出た反省を取り入れようとする姿勢があるか。

(2) 指導者と学習者の知識・読み取りの差が、教師からの一方的な講義という形で表面化しなかったか。

(3) 生徒の実態（学力・関心・心の状態）を把握しようとしているか。

(4) 授業に、生徒と教師の一体感が感じられるか。

(5) 生徒一人一人を尊重しているか。

（生徒の答えを切り捨てたり、突き放したりして、生徒に惨めな思いをさせてはいないか。）

(6) 授業をふくらませる雑談などはあるか。

（↑ 以上 主に態度面）

(7) 生徒に答えさせる内容と、教師が説明する内容との区別ははっきりしているか。

(8) 前時のやり残しの補い方は適切であるか。

(9) 授業にヤマ（盛り上がり）があるか。

(10) 授業に活気があるか。

(11) 時間配分は適切であるか。

(12) 計画されたことは、どれだけ実行されているか。

(13) 間の取り方（特に、発問から指名までの間）は適切であるか。

(14) 読みの指導（読み違いや語の強勢など）は適切であるか。（通読中か通読後かなど）

(15) 次時の予告はされているか。

（↑ 以上 主に技術面）

(16) 観察者は、指導者だけでなく、生徒の反応にも注意しているか。

(17) 観察者は、自分ならどうするかという気持ちで見ているか。

* (16) ~ (17) は授業観察者の観点からの加筆分

6. おわりに

管理職の授業観察については、平成 24 年度からの企画・研修スタッフの共同研究 1 年次より着目してきたところです。管理職には、確かな授業観察力と適切な説明力が求められており、教員が授業改善における自己省察を深めていく上で管理職による授業観察はとても重要です。そのため、2 年次の研究で、授業観察チェックリストの「例」を作成しました。各校の管理職が、自身のこれまでの授業観察を振り返る契機となり、所属教職員へのより適切な指導・助言につながることを期待して、「授業観察シート（例）」も作成し「管理職による授業観察リーフレット」としてまとめました。

学校マネジメントの根幹は授業マネジメントであるとも言われます。平成 26 年度策定された「第 2 期しまね教育ビジョン 21」に基づく「しまねの学力育成推進プラン」では、「授業の質の向上」「家庭学習の充実」「学校マネジメントの強化」が 3 つの柱とされました。そうした意味でも、3 年次となる平成 26 年度の研究では、「管理職による授業観察リーフレット」の活用状況や授業観察の実践事例、教員側からみた管理職の授業観察の状況などを調査・研究することで、管理職による授業観察の重要性を島根県全体でより意識してもらうことをめざしました。中でも、「管理職による授業観察実践事例集」の作成にはもっとも多くの時間を費やしました。

他にも「管理職による授業観察リーフレット 算数・数学編」を作成しました。これは、リーフレットの活用状況調査や授業観察の聞き取りでの意見を参考に、「事前の打合せ時間を短く」「いつ授業観察を行っても対応可能」の 2 点に注意を払い作成したものです。ただし、先進地視察として埼玉県立総合教育センターを訪問した際、「授業を 1 時間通して見ないと授業観察にならない」という埼玉県の授業観察に対する捉え方を聞き、算数・数学版の作成の考え方でよいだらうかと感じたことも事実です。また、観察の一助となるリーフレットを作成して終わりとするのではなく、リーフレットの活用法等を研修する機会を設けることが大切だと感じています。これは、実践事例集も同じです。現に埼玉県では、「管理職対象授業力向上マネジメント研修会」として授業記録ビデオを視聴しながら授業指導力向上の研修を行っておられます。この観点に立ち、当初事例集はホームページからのダウンロード版のみを考えておりましたが、研修用に製本することにしました。

今後も教育センターの役割として、授業改善や授業力向上に向け、管理職による授業観察の重要性を色々な角度からアプローチしていくことが大切であると感じています。

本書が管理職の先生方のお役に立ち、本県の教員、ひいては子どもたちのよりよい成長につながることを期待しています。

島根県教育センター 企画・研修スタッフ

企画幹 石原 清

指導主事 山崎 誠

仙田 浩志

目次 達郎

管理職による授業観察実践事例集

平成 27 年 3 月 31 日発行

発行所 島根県松江市内中原町 2 5 5 - 1

島根県教育センター 企画・研修スタッフ

印刷 (有) 土江明文社
